

13 【参考資料】 第63回研究会のまとめと反省

(研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等)

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

III 大会前の諸準備、諸会合について
会場校の決定、地区研、事前研、資料など

IV 大会当日の運営や内容について
日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど

V 各研究部独自の意見や要望

○…成果 ●…改善点及び課題
△…提案

<国語部会>

I

[新川地区]

- 研究授業は、1時間の中で、表現技法を使って和歌を作成し、話し合い、発表するという高い目標を掲げたものだった。生徒は意欲的に和歌を作っており、素晴らしい授業だった。新しい取組に挑戦するというのは、中教研の趣旨にも合っていてよかった。普段の積み重ねによって育成された生徒の力と指導者の熱い気持ちがあっただけだと思える。
- ペア学習が活発になされており、生徒の課題解決につながっていた。日頃の交流が継続的に、教科横断的に仕込まれていたのではないかと感じる。
- ワークシートが表現技法ごとに用意されており、生徒の選択が自由だったので、その分意欲をもって取り組めた。
- 班での活動や発表の仕方等、学習形態が定着していた。自分の考えと班員の考え、和歌を比較することで、各々が考えを深めていたように感じる。
- 生徒が適宜便覧を用いて考えを導いていて、日頃より補助教材を活用しての学習が進められているのだと感じた。
- 研究発表は、地区で中教研考査の結果を基に実態に合った目標を決め、取り組んだ成果を紹介していた。様々な取組があり参考になった。また、**3年間を系統的に捉えて語感を磨くための実践例が提示**され、それぞれの学年におけるねらいが改めて確認されたのでよかった。
- 協議会は、グループ討議だったので、話し合いが活発だった。また、授業者が各グループのテーブルに来られたので、質問をしたり、意図を詳しく聞いたりできた。

[富山地区]

- ICT機器の活用や言語に対する意識を高める工夫を凝らすなど、本年度の研究主題に沿った生徒の意欲を引き出す研究授業、実践発表であった。「話すこと・聞くこと」の領域で、ICT機器を有効に活用することで、授業の方法に様々な可能性が広がることを感じられた。
- 研究授業は「話すこと・聞くこと」の領域で、内容や進め方に従来にはない取組が多い意欲的なものであった。話し合いの中で効果的な発言や言葉はどのようなものかを、自らの話し合い活動の中で探るものであった。**
- 小グループで繰り返し視聴できるタブレットPCを活用することで生徒は主体的に取り組み、追究しようとする姿勢が見られた。
- 実践発表は、「書写」という個々の活動をあえてグループで取り組ませることで、意見交換しながら始筆、終筆、字形、筆順等、書写の大切なポイントを自覚させられるということが分かるものであった。工夫次第で、個々の取組をグループに広げ、また個にフィードバックできることが分かった。
- アドバイザーを招き、本会の趣旨に沿った内容の講義をしていただいた。研究大会全体のまとめとしても有意義だった。

[高岡地区]

- タブレット型PCを一人一台使用してプレゼンを作成することにより、一人一人が責任をもって取り組むとともに、容易に加除修正を行うことが可能となった。生徒は興味をもち、意欲的に取り組んでいた。今後、タブレット端末を使うことが間違いなく増えてくると思われる。**
- 授業の展開について、最初のモデル的な発表や掲示されていた資料等によって、生徒は見通しをもって学習に取り組んでいた。友達からアドバイスをもらうことで、自分が行うプレゼンテーションについて見直すことができていた。
- 話す構成の工夫や効果的な資料の選択等、生徒は目的に沿って自分の発表を練り直すことの大切さを学ぶことができていた。新しい学習指導要領の内容も配慮して、話すこと・聞くことに関する指導に積極的に取り組む授業だった。
- 「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」が終了した段階で、同事業をまだ経験していない1年生に向けて、プレゼンを作成する場を設定した。聞かせる対象を1年生と設定することで、異なる立場や考えを想定する機会をもつとともに、効果的に伝わっているかを友達との関わりを通して検討する姿が見られた。

[砺波地区]

- オリエンテーションを設け、以降の研修の方向について確認の時間をとった。事前の授業に対する質問の解説の時間をとり、また、討議グループ内でアイスブレイクを行った。以降の話し合いにおける雰囲気づくりにも有効であったように思う。
- 生徒の実態をよく把握し、付けたい力を明確にした授業であった。「**思考ツール（今回は三角ロジック）**」を

- どのように利用して、生徒の授業を進めていくかについて、考察が深まった。
- 部会協議は、フリーカード方式を使用し、6人グループ×6班で研修を行った。一人当たりの発言機会も多く、望ましい話し合いがもてたと思う。
 - 部会協議のグループの構成は、各グループに司会、記録を置き、3つの郡市ブロックを混合し、年齢層、男女等、なるべくグループの中で異質な先生方が集まるように配慮した。
 - 部会協議①をフリーカード法によるグループ協議で行うことで、全員で論点を絞りながら、活発な話し合いにすることができた。授業観察中は、付箋1枚につき、一項目ずつ、成果と課題を書き込んだ。授業観察後、指導案を拡大した模造紙に貼り付けて、整理しながら、意見が集中する箇所について重点的に話し合った。

II

[新川地区]

- 班での話し合いの際、一人一人が違う表現技法を選んでいると、推敲するにしても、代表作品を選ぶにしても観点が定まりにくいので、班員の構成については工夫が必要と感じた。
- △事前にどのような観点でグループ討議を行えばよいのか明示しておく、授業の着眼点も異なってきたと思う。付箋等を配布し、観点に対して「よいところ」「悪いところ」を事前に書いておくことでグループ討議がより深まったのではないかと感じた。

[富山地区]

- 生徒は話し合いの形の部分にとらわれ、言語に関して着目できていない面が見られた。
- 研究計画の3年目、最終年度となる来年度はさらに「言語に対して自覚的に思考・判断・表現する言語活動」について、より具体的な取組として、生徒自身が意識して言語を使い、その効果を自覚できる言語活動について研究を進める必要がある。

[高岡地区]

- 本時の段階で生徒は達成感を得ていたとすれば、友達のアドバイスが必ずしも必要ではない。話し合いを通してどのように変容したか、プレゼンを通して明らかにする必要があった。
- 相互評価が必要であるとするならば、評価の観点をどのように設定するかが重要である。声の大きさや速さといった「話すこと」の基礎にとどまらず、根拠の適切さや論理の展開をどのように組み入れていけばよいか、課題が残った。
- 聞き手である1年生が知りたいと思う内容を考えさせ、それを基軸として、話の構成を工夫する必要がある。
- △先駆的な取組だったので、この後を続けていくことが重要だと思われる。タブレットの効果を生徒が十分理解した上での積極的な利用になるように、指導の工夫・改善が必要だと思われる。
- △部会協議の司会の負担が大きい。ボードの運用・発表は別の人が受けもってもよい。また、協議を深めるためには、何か一つの課題に焦点化した方がよい。

[砺波地区]

- 生徒の活動時間に対して、教師の指示・発問の時間がやや多いように思われた。丁寧に指示すること、指示を生徒が理解できているかという不安からのことと思われるが、言葉の精選、時間配分に配慮があればよかった。
- 協議会のグルーピングを行う際、司会者の年齢等に偏りが生じ、全体の意見の掘り起こしが十分にできたかどうか不安である。
- △研究協議会において、班ごとに協議した内容の共通化を図るため、最後に発表を行うだけでなく、何らかの形で各班の発表内容が手元に残るようにしたい。

III

[新川地区]

- 今までの大会のデータの引き継ぎがうまくいっていなかったため、今年度の取組の反省やデータが次年度に生かされるようになってほしい。

[富山地区]

- 2度に渡り担当指導主事の指導助言を受けることができ、3度の市中教研幹事会、更に全体会での指導案、発表資料の検討を行い、若い授業者をサポートすることができた。
- 先々まで会場校を予定しているが、他教科の計画を考慮したものではないため、会場予定校が他教科と重なる可能性がある。そうならないように教科を越えた調整が必要である。

[高岡地区]

- 当日は来賓への対応等もあり、打合せをする時間はない。事前研修会で最終確認するほか、メール等で送付される書類を通して、当日の動きを連絡したり確認したりする必要がある。
- △9月25日までに製本完了という制約について、もう少し後に延ばしていただけようをお願いしたい。

[砺波地区]

- 部長担当校が他教科の変更の兼ね合いで、昨年度から予定していた案から変更になった。学校ごとの分担について、他教科との連携をさらに密にして計画を立てる必要がある。
- 資料の編集及び事前研修会については、事前研修が不十分で指導の先生にご迷惑をおかけした。
- 資料の製本や配布の日程が厳しい。さらに1週間程度の猶予があるとよい。体育大会等の行事が詰まっており、容易に事前の検討会が設定できない事情を考慮していただきたい。

IV

[新川地区]

- 授業は1クラスで、参観者が入り切らなかったため、隣の教室でライブ映像を見られるようになっていた。映像を見たり、授業教室で見たりと、どの場面をどこで見ると選ぶことができよかった。
- ライブ映像だと、板書が見えなかったため、カメラはもう1台あった方がよかった。教室と映像の音が重なっ

てしまうのが気になった。

△研究協議は、話合いの視点を示されたほうが、より深まったのではないかと。また、事前に協議会での観点が明示されていると、授業の着眼点も異なってきたかと思う。

△研究発表は、各学年の発達段階に応じて、どのように言葉の力がついていくのかが分かるような実践があればよかった。実践例が多岐にわたっていて系統が見えにくくなってしまった。

△研究発表をなくして、授業とその研究協議だけにすると、4限まで授業をし、ゆとりをもって学校を出ることができるし、授業時数確保にもなる。慌ただし日程で、生徒を下校させる頃には、教員がほんの数人しか残っていないことがある。

△研究発表については、時間と労力をかけて発表のための準備をしていただいているが、当日の時間が不十分で、発表だけになり、質疑も出なかったのがもったいなく、申し訳ない。授業力向上のためのアドバイザーによる講義で、発表のない年もあることを考えると、**発表自体の必要性について検討することが必要**ではないか。

[富山地区]

●実践発表も盛り込むことで、時間的に厳しい日程となり、終了時刻も超過し、会場校に迷惑をかけた。研究発表担当校は先を見通して割り振っているが、**アドバイザー講義のある年は、実施しないことも検討する必要がある。**

[高岡地区]

●部会協議で、付箋に授業者への質問を記入したが、実際に質問することができず残念であった。協議では付箋に記入したことの紹介だけとなり、発表の時間も足りないと思った。

●開始時刻が早く、生徒を下校させる前に勤務校を出ることになった。

●体育館で実施する場合、生徒の発言が聞き取れないことがある。**マイクを活用することを考えてもよかった。**

●部会協議では、グループ協議が充実していたが、その分全体の協議時間が足りなかった。班および班員の数が過多にならないよう留意する必要がある。

●グループ協議を行う前に、質疑応答の時間を設ける必要があった。また、司会者と発表者を分けるなど、司会者に負担のないよう配慮する必要があった。

△授業力向上のためのアドバイザー講義については、昼食等の予算や謝辞の持ち方等、富山地区と合わせながら進める必要がある。

△アドバイザーの昼食を会場校で準備した。場所がなく、当日対応する人が少ない。会場に入る前に、食べていただけると助かる。

△多くの学校が学習発表会前の時期であるので、開催日をずらせないものか。大会の11月の開催についても検討が必要である。

[砺波地区]

●運営分担については、担当部長校が小規模校で当人しか国語科の教員がいなかったり、国語科授業担当校の授業担当者以外が講師で専任の教員がいなかったりして、実際に会場運営の実務にあたる人員が不足し、大変であった。

●指導案拡大の依頼や発表用ホワイトボードの配置等、本来国語部会ですべきことに研究大会会場校の協力を仰ぐ場面が多くなった。

●授業者の意図や生徒の実態等を事前に十分に確認するために、オリエンテーションが行われたが、授業会場校の国語科の教員が少なかったため、授業者の負担となったのではないかと。

△若手の増加にともない、研究の視点についてどのように見るべきか、視点の絞り方や協議の仕方等を共通理解しておくことも必要であると考えた。フリーカード記載の際に、必ず時刻を記載、どの時点での着眼であるかを明示、横書き、マジックの色使い等、事前の確認を行ったが、今後も必要である。

△研究発表については、それぞれに発表資料をプレゼンテーション化していただいた。データを共有化するため、各市の共有ホルダーへ入れるなどの方法を推進していきたい。

△研究協議の形は、様々な形を経験するのが望ましい。春の大会では全体討議形式、秋の大会ではグループ討議形式というのを継続するのがよいのではないかと。

V

[新川地区]

△教員同士で意見を交換できる場が増えると嬉しい。研究大会当日以外で、気軽に集まれる場がつかれないか。

[富山地区]

△高岡地区と研究授業の領域が「話すこと・聞くこと」と重なり、アドバイザーの講義内容は双方に有益な内容となるように考えてくださった。**今後、東西のアドバイザー配置地区同士で、研究授業の領域を統一するなど連携するのも有益だと考える。**

[高岡地区]

○部員数の少ない氷見市での開催となり、市内全部員が役割を担ったほか、高岡市・射水市の会員にもグループ協議の司会を依頼した。高岡地区全体で協力して運営を進めた。

△授業力向上のためのアドバイザー講義を希望する参加者の声も多いことから、毎年講義を実施していただきたい。従来どおり「県外講師」が担当する2地区とし、残り2地区を「県内講師」が担当すれば、旅費等、予算の問題からも実現が可能になるのではないかと。部会責任者に渡す費用を削減しても問題はない。

△高岡市、射水市、氷見市の会員数等を考慮して、高岡地区の授業や研究発表のローテーションについて検討する必要がある。

[砺波地区]

△フリーカード用のカード、サインペンなどを準備費で購入し、以降持ち回りとする事とした。フリーカードはある程度付箋の粘着力が強いものを準備することが必要である。

<社会部会>

I

[新川地区]

○授業力向上アドバイザーから事前に指導案づくりで助言をいただくなど、授業づくりから関わっていただいたおかげで研究授業がよりよいものになった。

- 書く活動が充実しており、生徒の思考が整理されやすいように工夫されていた。
- まだ開通されていない「豊予海峡ルート」について、既習事項を活用しつつ未来のことについて推測できていた。しっかりと知識の定着も図れていた。
- 根拠をもって意見をつくっていた。補助教材のワークシートもしっかり活用されていた。
- 部会協議では意見交換を中心に言い、参加者には「リフレクションカード」を用いて授業者への意見をいただいた。時間短縮になるとともに、多くの先生方から授業者に温かい一言もいただけ、授業者にとっても次に生かす資料となる。**
- 「本四連絡橋の開通に伴う四国地方の人々の生活の変化」の説明的知識や概念的知識を基に「豊予海峡ルートの開通は四国地方にどんな影響をもたらすか」を生徒一人一人が価値判断・未来予測を行うことで「主体的で深い学び」をすることができ、「社会的な考え方」を深める上で有効であった。
- 「知識の構造図」は、生徒が習得すべき知識の系統を教師が予め把握することができ、課題を追究する単元を構成するのに役だった。
- 現在構想中の「豊予海峡ルート」を教材として取り上げたことは、学習意欲を喚起する点でよかった。
- 授業力向上アドバイザーの講演で、基礎的知識の習得に十分時間をかけた上で探究的な授業に進むことが重要であることを学んだ。
- 授業力向上アドバイザーの講義はとても参考になった。ノートづくりや学習方法について自分の実践を交えて話していただけるので有意義であった。また、最前線の社会科教育の実情を踏まえているので、充実した研修となっている。

[富山地区]

○指導案の中身を吟味する幹事会を複数回設定し、授業者だけでなく、部会として一緒に授業を考え、つくり上げていくという姿勢で臨むことができた。また、8月部会では、部員全員が地理・歴史両方の指導案を検討したことで、授業者のねらいを事前に理解することができ、みんなで授業を考えていく雰囲気が高まった。そして、当日も視点をもって授業を参観することができた。

○例年と違い、8月部会での検討を終えた後に指導主事の先生に指導していただく機会を設定したので、授業について具体的なアドバイスをいただくことができた。

- 授業者がシンガポールで現地研修したことを生かして、地理の教材づくりを行うことができた。
- 「問い」を重ねながら生徒自身で学習課題を練り上げていくことによって、生徒たちが主体的に学習に取り組むことができていた。
- 導入で取り上げた映像資料を終末で改めて見直す場面を設けたことで、生徒自身が考えの深まりを実感することができた。
- 厳選された資料の提示や定型文から文章表現につなげる工夫等、考えることや書くことが苦手な生徒も積極的に取り組むことができるような支援がなされていた。
- 今年度は研究発表の年であったが、諸々の事情により、新学習指導要領完全実施に向けてのポイントを指導主事の先生に講演していただいた。社会科で身に付けるべき力や「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の3観点についての考え方、評価基準の作成や日々の授業改善の視点を再確認することができた。

[高岡地区]

○研究授業で**ゲストティーチャーを招いた**ことで、専門的な助言に加え、生徒の考えやすい事例を提供したり模擬裁判の判決を出したりすることで、裁判をより身近に感じさせ、学習への興味・関心を高めることができた。また、ゲストティーチャーによる論点整理が分かりやすく、的確なアドバイスで話し合いを進めることができたので、生徒の考えが深まっていた。

○研究授業を参観する際に、部員が担当する班を決めて生徒の変容を観察し、部会協議のグループ協議を行ったことで、具体的な意見を活発に出すことができた。

○射水市の研究発表では、継続的な研究（地域教材開発）の在り方を知ってもらうことができた。また、各市で資料を持ち寄って話し合い考えたことで地域教材開発の可能性を広げることができた。特に、教材開発ワークシートを作成したことで、話し合いがスムーズになった。

[砺波地区]

○授業力向上アドバイザーから事前に指導案づくりで助言をいただくなど、授業づくりから関わっていただいたおかげで研究授業がよりよいものになった。

○部会協議では、少人数による班を設定して授業研究を行った。各班の構成については、各郡市部長で話し合って概要を決めた。また、司会者にはできるだけ若手教員を充てた。

○少人数で話し合うことで、研究主題や授業の進め方について、若手教員が考えを深めることができた。

○授業者の自評を行わず、少グループで協議する時間を十分にとったことで、若手教員を含めて、一人一人が授業を参観して考えたことを様々な視点から出し合うことができた。また、付箋を用いたことで、話し合いが焦点化された。さらに、研究主題等に対する解釈の仕方等も、お互い確認したり修正したりするよい機会となった。

○授業力向上アドバイザーからは、新学習指導要領の完全実施に向けた評価の観点やどう評価していけばよいかも話していただけたので、今後の授業の仕組み方について考えることができた。

- 研究協議Ⅰでは、協議内容を「研究主題を受けての教師の工夫は有効であったか」に絞ったことで研修内容が深まった。また、部員の年齢を考えて3～4人の少人数グループを構成したおかげで、若手が経験豊富な教員から授業の見方や授業づくりのこつを学ぶことができ、会員から非常に好評であった。
- 協議終了後に、授業の改善点や参考になった点書かれた用紙を授業者に渡し、今後の参考になるようにしてもらおうと試みた。
- 授業力向上アドバイザーからの講演は大変学びの多いものになった。一方的な講義形式ではなく、講演の途中で研究授業Ⅰでの少人数班を利用して課題を話し合わせたり、その場で出てきた部員の質問に答えていたたりしたため非常に盛り上がった。また、講演後の質疑応答にも丁寧に答えていただき、大変刺激を受けた。**

Ⅱ

[新川地区]

- 自分の考えを書く時間がかかり多く、全体で自分の考えを発表し合って思考を広げたり深めたりする活動が十分でなかった。**「対話的な学び」をどのように授業に位置づけていけばよいか**が課題と思われる。
- 地図をさらに細かく見させることで、生徒が学習課題をより具体的・現実的に捉えることができるようになる必要がある。
- 前時までの資料の読み取りやまとめた結果を活用できるように、ワークシートの構成を考える必要がある。(根拠資料の明示、比較・関連付けを行った資料の明示等ができるようにする など)
- 学習形態を「個→班→全体→個」で行う際に、それぞれの時間配分を適切に行う必要がある。
- 本時の授業を単元のまとめとして行えば、農業・工業・観光等について、さらに既習事項を生かした意見が出たのではないかと思う。
- 「予想」だけでなく、価値判断(橋を造るべきか否か)まで議論できるとよかった。
- 知識を活用することは大切だが、「本州-四国」の事例をそのまま「九州-四国」の事例に当てはめられるわけではない。そこに資料の「比較」や「関連付け」が行われていれば非常に有意義な学習になったと思う。

[富山地区]

- 事前の指導案検討に多くの時間を要しており、授業者や幹事の先生方に負担のかからない、効率のよい事前研修の進め方を工夫しなければならない。**

[高岡地区]

- ゲストティーチャーと判決を出すことが授業の中心となってしまう、ねらいに至るまでの時間が足りなかった。授業内容の工夫は必要だが、**ゲストティーチャーありきの授業になってしまったことは否めなかった。**
- 終末まで到達できなかったことで、時間配分の最高が求められる。また、課題とまとめが一致するような1時間の授業でありたい。
- 主権者教育の一層の充実が求められる昨今、他分野における学びとつなげたい。
- 研究協議では、全員が意見をもってグループ協議に参加し、活発に意見交換するのはよいが、協議内容をグループの代表が発表するだけで、研修会全体としての深まりは不足していると考えられる。
- 授業者の自評や発表者の発表の後、すぐにグループ協議となった。時間が限られているのは分かるが、質疑応答の時間が取れば授業者も参観者も自身の思考の深まりを感じることができるのではないかと感じられた。

[砺波地区]

- 評価基準の設定の仕方について、ABCそれぞれの観点が設けられており、生徒の到達すべきゴールが明確で分かりやすかった。しかし、「本時でおさえたキーワードをすべて用いてまとめられることが、必ずしも思考力・判断力・表現力におけるAとなるのか」という意見があった。

Ⅲ

- △資料の製本について、**今後は各校にメール(PDF等)で配信し、それぞれ製本してもらった方が効率的ではないか。(新川、高岡、砺波)**
- △地区研究会について、**富山地区単独で行う教科については、必要ないのではないか。開催するのであれば、教科ごとに会場校で行った方が効果的でよいと思う。(富山)**
- 氷見市は2学期始業式が8月27日であるため、**指導案完成・提出の〆切りまでに検討会を2回しか開くことができなかった。しかも、北信越大会や評価委員会に関わっている先生も多く、検討会参加者が揃わず、指導案の最終調整に苦労した。(高岡)**
- 今後、授業者がこれまで以上に若手になっていくことが予想される。指導案づくりやトライ授業等において、授業者を全面的にバックアップする取組を考えていかなければならない。(砺波)

Ⅳ

- △研究発表は、**労力の割に研究の成果を共有しにくく、一部の部員の負担が大きい。授業を基に参観者で改訂指導案をつくったり、単元の授業づくりをしたりするなど、ワークショップを行う方が効果的な研修になると思う。**
- 授業力向上アドバイザーの講演は内容も濃く、時間が足りなかったように思う。部会協議との時間配分について検討が必要である。
- △**授業力向上アドバイザーの講義は分かりやすく勉強になるが、違う方の講義も受けてみたい。**

V

- △射水市中教研では研究授業を中心に、**指導案をデータベース化**している。特に地域教材の開発にあたって蓄

積を重ねてきたが、他地域の実践や研究の蓄積を汁情報交換の機会があればよい。(高岡)

△「研究大会を終えて」については、**都市単位で作成するのではなく、都市部長の意見を集約した上で、各地区で一部作成する形にならないか。**

<数学部会>

I

【新川地区】

(研究授業について 2学年「平行線と角」)

- 既習事項を(図と言葉セットで)ホワイトボードに貼り、番号を付けて、誰もが見やすくいつでも確認して考えられるように工夫されていた。生徒が一人でも考えられるような手立てであり、ユニバーサルデザインを取り入れた授業展開だった。このことが、根拠を明らかにして証明しようとする意欲や態度につながっていた。
- ラミネートシートを班に1つ配布し、マーカーを使って書いたり、消したりすることができるようになっていたことで、考えを共有しやすいように感じられた。
- 研究授業では、丁寧な指導を参観することができ、大変参考になった。
- 広い場所で授業が行われたので、参観しやすかった。
- 角度を求めた過程を式にしてプリントに残すことを普通の授業でやってきたことが伺えた。その中で説明する力が身に付いていたと思われる。

(研究協議について)

- 協議会の時間が短かったため、**事前にワークシートを配布し、協議会ではそれを基に最寄りの席の教員で意見交換を行った。**視点を絞った意見交換にしたことは協議が活発になり、スムーズな進行にも役立った。来年も同じような形で協議会ができるとよい。さらにより多くの先生の気付きを取り上げたい。
- 協議の時間を短くして、授業力向上のための講義の時間を多くとったのがよかった。
- 授業力向上のための講義は、当日の授業や数年前の授業を基に、授業を行う上で、教員が何を求めているか考えなければならないかを考える場になった。数学教育の原点に立ち戻ることができた。**

(アドバイザーの講義)

○**習指導要領が出されるたびに、文言が変わり、目指す学習が変わっていくので、それらをかみ砕いて説明していただき理解が深まっている。**

- アドバイザーの講義では、即実践できる内容が多く、非常にためになった。

【富山地区】

(研究授業について 1学年「平面図形～おうぎ形～」 2学年「1次関数の利用」 3学年「円」)

(1学年)

- 学習課題に「ピザ」を取り上げたことは、日常生活につながりがあり、適度な困難性のある問題にも意欲的に取り組むきっかけになっていた。課題1で内容を教え、課題2で考える展開にしたことで、解く見通しがもてた。
- グループで相談する場面が多く見られた。分からないことをグループで導き出すことが大切である。

(2学年)

- 先生や友達が走る様子をモニターで見せ、関数のグラフをイメージさせる活動は、まさに身近な題材であり、深い学びにつながる手立てとなっていた。
- 「関数」を取り扱うときは、 x と y がしっかり定義されることが大切である。今回は、イメージとして捉えることがねらいの一つでもあったが、大部分の生徒が達成できていた。

(3学年)

- 教科横断的な学びとして、円の中心を求めるためにさしがねを用いたことが効果的であり、課題設定に説得力があった。**円の大きさもよく研究されており、さしがねを操作するうちに、何となく学習課題にたどり着けるように工夫されていた。
- 対話的な学びは、聞くことから始まる。グループで何を話し合うか、きちんと提示されているのがよかった。**
- 生徒の言葉にあった、「自分が分かっている、相手に理解してもらえるように説明することが難しかった。」という一言が、深い学びの本質をついていたのでよかった。

【高岡地区】

(研究授業について 1学年「比例と反比例」 3学年「いろいろな関数の利用」)

- 節度ある中で、生徒は前向きに授業に取り組む雰囲気があり、数学が得意でない生徒も生き生きと学習していた。
- 1会場で3つの授業を提案していただいたため、混乱も考えられたが、会場校の準備や配慮のおかげでスムーズに運営することができた。

(1学年)

- 小・中学校のつながりのある授業展開があり、今後の小中一貫教育への見通しがもてた。**
- ともなって変わる2つの数量について考える場面では、一人一人にタイルが配られ、操作活動をして変化の様子を考えることができた。
- 関数の導入の授業であり、タイルの枚数を変えたときにそれともなって変わる多様な数量について考える内容であった。生徒が出した考えについて、生徒が説明する場面を設定することで、より主体的な学習になると考えられる。

(3学年)

- ロールプレイを取り入れたことによって、グループで「何に着目して考えるか」が明確になっていた。**視点を色々変えて考えさせていたのはおもしろかった。

○関数の理解を深めさせるために、身近な課題を用いて興味を引き付ける工夫がなされていたことが効果的であった。

○**携帯電話の料金に関する授業で、iPad等ICTを活用した2つの授業が提案された。問題の前提と目的を確認し、共有してから課題に取り組むことでより深い学びができると考えられる。**

○2つの階段関数を比較することで、 x の範囲に分類しながら考察することが自然に行われていた。携帯電話の料金という題材も、生徒にとって身近なものになっていたのがよかった。

(アドバイザーによる講演)

○数学のみならず、今後求められる指導の在り方についての講演であった。「主体的・対話的で深い学び」における「学びの深さ」は、「見方・考え方」の成長で把握すること等、深い学びを実現するために必要な「数学的活動」について学ぶことができた。

【砺波地区】

(研究授業について 3学年「相似」)

○研究授業では、授業校の敷地内にある木の高さを、実測以外の方法で求めるという、生徒にとって身近な題材で関心もてる内容であった。

○「相似な図形の性質」や「相似条件」等、既習の内容を根拠に考えることが、自分の考えを他者に説明するための手がかりとなった。その際、用語や性質の理解や扱い方に不備がある生徒に対して切り返しの発問を適宜行うことが、学びの深まりにもつながり、有効であった。

○ICTを活用した課題提示が分かりやすかった。

○写真が身近にあるもので、また数値の計算しやすいもので、生徒にとって余計な混乱がなく、解決しやすいものだった。

○「縮図」ではなく、「相似」に意識がいくような手立てがされていた。

○「なぜ、比例式が使えるのか」等、生徒の考えについて、より深く考えさせようとしたり、全体に広めたりする発問が効果的だった。

○類題は、身近なものでよかった。また、課題の提示の仕方、扱う数値は、実態に応じて、生徒の興味関心を高めるもの、取り組みやすいものにするのが有効である。

○よい点と課題の2色の付箋を用いた授業参観により、参観者が集中して参観できた。

(研究協議について)

○部会協議①で、研究主題の解明に向けた日頃の実践について協議する時間をとった。実施に当たっては、フリーカード法による進め方を「指導の重点」で確認し、各グループに経験年数の豊富な教員を配置したことで、経験年数の短い教員にとって、自分の日頃の実践を見直す機会となり、活発な協議ができた。

○フリーカード法による協議では、**授業において有効だった手立てや改善が必要な点を付箋に書き、時系列でまとめた。それによって、部会員全員の意見を吸い上げることができ、主題解明に効果があった。また、授業を見る際の観点が明確であった。**

○授業者が各グループを巡回していたため、質問をしやすかった。

○部会協議②(研究発表)で、北陸四県数学教育研究大会の研究グループによる発表を行った。部会の参加者にとって研究の成果を知る機会となるとともに、研究グループにとって研究大会に向けた最終確認の場とすることができた。

II

【新川地区】

(研究授業に関して)

●証明問題は自分が解決できるだけでなく、まわりの人にも理解してもらえることも大切になるので、そのことが実感できるように相手に伝わる工夫が必要である。

●グループになって生徒からいろいろな考えが出てきたとき、先を急がず、疑問や問題点を全員で共有することも大切かと思う。生徒からの素朴な疑問こそが本当に深い学びにつながると考える。教師が誘導せずに、自分たちで議論することで自然に深い学びにつながっていくのではないか。

●生徒が話し合いに使った透明ボードをそのまま黒板に貼れば、再度、書き直す手間が省けたのではないか。

●授業設定数の増加が必要である。

【富山地区】

●グループ活動では、ホワイトボードやノートを見せるだけでなく、過程を共有することが大切である。**下位者を意識して、上位者が引っ張るだけの活動にならないように気を付けたい。**

●他のグループの式を見て、どういうことを考えさせたり説明させたりすることもできたのではないか。

●いろいろな関数の単元では、日常の事象から関数関係にあるものを発見し、これまで学習した表・式・グラフを用いて考察していくことが大切であると考えられる。今回の単元では携帯電話の料金という題材を教師側から提示していたが、その題材となるものを生徒に発見させる活動を取り入れてもよいのかもしれない。

●参観者が多数いるため、どうしても広い授業会場が必要になるが、通常の教室とは違う雰囲気では生徒が戸惑っている様子が感じられた。

【高岡地区】

(研究協議について)

部会協議①について

●**授業者が協議したいテーマ(授業のねらいや視点)と参観者からの発言が、必ずしも一致しているとはいえなかった。授業の前のオリエンテーションが日程的に難しいのなら、授業者と司会者による簡単な打合せの場が当日あってもよかった。**

●大勢で協議をすると意見を出しにくくなり、感想中心の協議になってしまう。少人数で協議をする時間を取

り入れると、参加者全員が学べる協議会になると思う。

●協議については活発な意見が出るような工夫を考える必要がある。

部会協議②について

△アドバイザーの講話はとてもためになりよかったが、少し難しく感じた。同じ講師の話を何度も聞いて理解を深めることは大切だが、いろいろな方の講話を聞くのも勉強になると思うという意見があった。

【砺波地区】

(研究授業について)

●本時で、より深い学びにするには、相似条件のどれを、なぜ使えるのかについて、考える機会があるとよかった。

●授業者の負担を軽減すること。今年度の授業会場校には、数学科の教員が4名おり、指導案の検討や授業の準備に向けて協力を得られた。学校によっては1名しか数学科の教員がいない場合もあり、地区の部会としてどのようにサポートしていくか検討が必要と思われる。

●部会協議Ⅰのグループに若手とベテランの先生が同じグループに入るよう配慮した。グループ内では多くの意見が出るが、全体で焦点をしぼり、協議がより深まるよう工夫を考えていくとよい。

●より深い学びとなるためのまとめ、振り返り活動の充実が必要である。

●対話的な学びがより充実するために、生徒の疑問や意見を取り入れたり、全体へ広めたりする指導者の働きかけや教材分析が必要である。

●小学校での既習内容とのつながりを生かした教材研究、授業展開を考えていくことが必要である。

III

【新川地区】

4 資料の製本や配布 等

●授業会場の生徒の机の配置について、前後左右の机の間隔を十分にとれば、教師は机間指導がしっかりでき、生徒一人一人の考えを十分に把握し、生徒の思考に沿った議論が展開しやすい。

△製本作業は各校へメール配信して、印刷してもらってはどうかという意見があった。

△特定の方への負担が大きいため、もっと細かく役割分担をした方がよい。

【富山地区】

1 会場都市、会場校の決定について

△富山市は、教科ごとに会場校が先々まで決まっているが、実技4教科は、先生で順番が決まっているため、異動があるごとに会場校の見直しが必要である。

△差し支えなければ、印刷・製本のための会合はなくしてはどうか、担当校を決めて、印刷・製本することで変えろと考えられるという意見があった。

【高岡地区】

△「7月25日～7月31日はできるだけ出張を組まない」（市中教研事務局より）は、指導案を検討するための日程調整に無理が生じた。

△部会責任者、市部長、会場責任者、研究推進委員長、会場校数学主任のそれぞれの役割分担が分かりづかった。

IV

【新川地区】

1 運営分担や日程について

△半日での運営は時間的に厳しい。一日開催としてじっくりと協議や情報交換等ができるものにしていただきたいという意見があった。

2 研究授業について

○多様な意見を出させるための教師の工夫はどうすればよいのかを改めて考えさせられた。

△会員数が多いため、複数学年にわたって研究授業ができないか、今後検討してもらいたい。

△アドバイザーが、ノートや発表資料を撮影することについて、状況によっては、生徒の顔も撮影され肖像権の問題等もあるので、事前に生徒に伝えるなど、配慮が必要という意見があった。

3 研究発表について

△時間がなく、資料配付のみで終わった。短時間でも、発表の時間があつた方がよいと思うが、現在の運営スケジュールでは厳しい。

4 研究協議

●全会員での一斉型であったが、工夫が必要。（時間が短い。会員数が多すぎて一部の意見しか聞けない。昨年度のような郡市に分かれて話し合うのもよかった。）

△北四数の資料も協議する時間があつてもよいのではないか。

●協議会である以上、話合いの時間をしっかり確保する必要がある。ほとんど、協議をすることなく終わることについては、残念であった。

●研究協議では、挙手制でなくグループで話し合い、いろいろな先生方の意見に触れたかった。

●ここ何年間も同じ先生なので、いろいろ視点から見ることも必要と考えるので、新しい先生の話を知りたいという意見があった。

●協議会に、マイクを準備してほしい。後ろの方では、聞き取れない部分があつた。

【富山地区】

2 研究授業について

△数学では、今後も3つの授業公開が望ましいが、他の学年でどのような話し合いが行われたか、共有できる時間設定ができないだろうか。

【高岡地区】

2 研究授業について

- 本時の指導案だけでなく、前時の学習内容や、次時へのつながりが分かるものがあればよかった。

V

【新川地区】

△数学部会においては、毎年若い方が研究授業をする。授業に至るまで身近にいる人がしっかりとサポートしてあげるのももちろんのこと、授業者本人が、もっと真摯な気持ちで教材研究やトライ授業をする必要があるのではないかと。

- 透明ボードを効果的に活用し、話し合い活動を活発に行わせたい。話し合いには太くて濃いホワイトボードマーカーがたくさん必要なので、その確保が課題である。
- 学習内容の難易度がやや高いものであった。深い学びにつなげられるよい機会ではあったが、全員が参加できる内容ではなかったのかもしれない。

【高岡地区】

△現在、高岡→射水→高岡→氷見→…のローテーションとなっている。数学部会の部員数を考えると、二つの授業を公開する必要があるが、会場都市が氷見市の場合、学校の規模から、北部中学校と西條中学校以外での開催が難しい。部員数でも、高岡48名、射水29名、氷見13名と偏りが多いため、今後、見直す必要はないのか、意見を伺いたい。

<理科部会>

I

【新川地区】

- 夏休みの課題や学級の日直を利用し、月の継続観察を行うことで、生徒の学習意欲が高まり、与えられたデータで行うよりも、切実感を持って課題に取り組むことができた。また生徒の理解が深まったと感じた。
- 月と太陽と地球の位置関係を表す立体模型を活用することで、月の満ち欠けのようすをイメージしやすくしていた。
- 生徒の現状を知るために、**レディネスシート**を活用し、先を見通した単元構想をされた。
- 日頃からの観察や天球儀の活用等、実際に生徒とやってみることが意欲向上につながった。
- 授業の時間だけでは自然に対する興味・関心を養うことに限界があると感じた。日頃から生徒が自然について話題にしたり、観測の経験をさせたりすることが効果的であると認識できる研究授業であった。
- 授業の進度を調節してもらい**、3年生の天体についての授業を提案していただいた。例年同じ時期に行われる研究大会ではあまり見ることのできない領域を参観できてよかった。
- ICT機器の活用により、テレビの大画面を用いて生徒が自分の考えを伝える場面があり、生徒同士が学び合う姿勢が見られた。
- 人前でうまく話をするのでできない生徒には、自信をもって話ができるように、教師が話し方を示してやるとよい。短い内容でよいので、日々の授業での話し方のパターンが身に付くような指導を継続的に行うとよい。**

【富山地区】

- 1年生では一度浮いたビーカーが再び沈むことが水の状態変化によって起こる実験について、2年生では二酸化炭素の中でマグネシウムが燃焼する実験についての授業を提案していただいた。どちらも発展的な学習内容で、研究大会ではあまり見ることのできない授業を参観できたことがよかった。
- 1年生の授業では、不思議だと思ふ気持ちから、仮説を立て、主体的に考えていた。これが深い学びを支えている。また、前時の実験をタブレットパソコンで録画したものをテレビで見せて、実験中には気付かなかった気体の量が減ることが沈んだことを確認したこと、**ICT機器を使って実験結果を加工処理したことは、生徒の学習意欲を高めた。**
- 2年生の授業では、「何？」とつぶやいたり、「あれっ？」を思わせたりしたところから学習課題があり科学を学んで楽しいと感じさせる授業だった。
- アドバイザー講演では、学力の3層構造（知識・理論⇨思考力・判断力・表現力⇨学び向かう力・人間性）をもとに、課題の設定、授業の導入、指導の改善を図る視点について説明していただいた。

【高岡地区】

- 知識構成型ジグソー法**を用いることで、生徒一人一人が、責任をもって実権に取り組み、班の話し合いにも意欲的に取り組むことができていた。
- エキスパート活動で4つの実験を同時展開**で行うことができ、時間短縮につながった。そのことにより、ジグソー活動で行う話し合いに十分に時間をかけることができた。
- 自作された4種類の楽器が生徒の興味・関心を高めるのに有効であった。
- 授業者の先生は各楽器の音の高低を決める条件を見出すよう指示していたが、生徒たちは楽器ごとに考えるだけでなく、4種類の楽器の結果から音の高低を決める共通の条件を探そうと主体的学び合う様子が見られた
- ホワイトボードやICT機器を用いて班での意見を全体に共有しようとする工夫がされていた。

【砺波地区】

- 生徒はICT機器を上手に使っていた。例えば、各班がホワイトボードに書いて発表した内容をタブレットで撮影し、班に戻って共有していた。また**肉眼では見えにくい変化も、タブレットに撮影し、繰り**

返し再生したり、拡大したりして注意深く観察していた。

- 班毎に仮説を設定し、実験方法を考えたことで、課題解決に主体的に班で協力しながら取り組む様子が見られた。
- 生徒の考えを尊重した実験だったので、生徒は主体的に学習活動に取り組んだり、自分たちで実験方法を修正したりしていた。
- レディネステストによって生徒の実態を把握し、きめ細やかな指導計画が立てられていた。
- 結果や考察を書く際に、定型文を提示したことで科学的根拠を明確にして考えを記入することができ、他の班の意見と見合うことで学び合いが深まった。
- 「**仮説について考えるカード**」と「**結果から雲の発生について考えるカード**」の2種類を用意し、順序立てて考えたり、定型文を提示したりすることで、実験の目的や見通しがずれないようにしていた。こうすることで、**思考を整理して話し合いをしやすくし、根拠に基づき課題を解明しようとする態度を養うことにつながられた。**
- 部会協議では、部員を6つのグループに分けて小グループでの話し合いをもった。若手とベテランの先生が同じグループに入るように配慮して、授業者から話し合いの視点を示し、話し合いをしやすいように行った。

II

[新川地区]

- 月と太陽と地球の位置関係を表す立体模型を使って話し合い活動をしようとしていた際に、同一視点で観察、協議するよう指示がなかったために、話し合いがスムーズに行われない場面が見られた。
- モデルの使用について、生徒の座席によってモデルを見る方向・視点が異なり、いい面もあるが、逆効果の場合もある。方位と上下左右は異なることや、上から見ているのか？横から見ているのか？を伝えてあげるべきだった
- △4つのパターンについて、太陽・地球・月の位置関係を考える課題設定には無理があったような気がする。2つぐらいのパターンにしぼって考えた方がよかった。
- △教師側が地学分野の知識を深めること、スケールの大きな内容なので、生徒が理解できるような働き換えをする必要がある。
- 月の満ち欠けが起こる理由について、予想に十分な時間をかけたことはよかったが、それによって、ワークシートを用いた考察の時間が不足していた。各班で話し合われた情報を全体で共有する際の時間が短く、考察が十分になされなかったため、その後のワークシートを間違えて記入している生徒も見受けられた。

[富山地区]

- 1年生の授業では、「課題設定」が解決のためのプロセスとなるので、前時の実験で明らかになった疑問を話し合う時間を確保するなど、**生徒の疑問を大切にし、課題の設定を焦点化する必要がある**と思われる。
- 2年生の授業では、間違った意見が発表されたが、その意見を生かしながら、正しい考えにもっていくのが大切である。もう一度、説明させたり、いろいろな意見を出させたり、意見の交わり合いが有効であると思われる。

[高岡地区]

- 音の高低を変える発音体の条件について考察する場面において、複数ある条件を一つにまとめようとして、話し合いが行き詰まる班が見られた。**キーワードを探させるなどの話し合いの視点を与えることが必要**である。
- △実験を行うにあたり、生徒に試行錯誤させることも大切であるが、誤った実験結果にならないためにも、条件設定や器具の使い方等の事前指導をすることが大切である。
- △限られた場面だけで使える理解ではなく、他の場面や条件にも適用できる深い理解を促すために、観察・実験の結果を考察することに加えて、得られた知識や生活経験を活用する課題に取り組みせることが大切である。
- △「ドレミパイプは手で持った場所から遠いところでたたくと音が低く、近いところでたたくと音が高くなる」「太鼓は中央付近をたたくと低い音になり、縁の近くをたたくと高い音になる」「太鼓や輪ゴムがピンピンだと高い音が出る」などと班でよい気付きを発言している生徒が見られたため、音の高低を決める条件については生徒の意見をたくさん出させてまとめ上げられたらよかったのではない。
- 用意した実験器具の数が少なかった。班内で話し合うときに検証する分も用意されていればより深い学びになったと思われる。

[砺波地区]

- 雲ができる理由として、山の存在をもう少し意識付けしたかった（吹き上げる時にでき、吹き降ろす時に消える）。
- 生徒は雲が発生するように、試行錯誤して実験方法を修正していたが、結局発生させることができなかった班もあった。教師による演示実験で雲の発生する様子を全体で共有していたが、自分たちの手でも雲が発生するという体験ができたらよかった。
- 生徒の仮説に基づいて実験方法を考えるため多様性が生まれる一方で、安全面で配慮すべき点が見られた。
- △学習課題で「雲がある高さで発生するのはなぜだろう」という表現にすると、疑問や問題止まりになってしまうので、「雲がある高さで発生するのは、何がどのように変化するからか」という課題を設定し、霧ができる知識を活用して仮説を立てていく展開も考えられる。
- 生徒の考えた様々な実験を同時展開したことで、指導がいろいろな場面で抜けたり遅れがちになったり

- したため、後半の話合いの時間を十分にとることができず、カードもあまり活かしきれなかった。
- 部会協議をグループで行った場合、十分に時間がとれないため、意見は出るが全体での深まりが見られなかった。

III

[砺波地区]

- △指導案検討のための事前研修を、夏休み中のものに加えてもう1回行ってよかった。
- △協議会の会場、部会協議の進め方等、細かく打合せをしておきたい。
- 夏季休業中に指導案検討を行い、十分に話し合うことができた。

IV

[新川地区]

- △授業者のねらいや協議会の視点を共通理解する上で、オリエンテーションは行った方がよい。今回、その時間設定を行わなかったため、会場校挨拶や簡単な事前説明を受付時間中に行うこととなり、余裕がなかった。
- △部会協議では、なかなか質問や意見が出されずに活発な意見交換ができなかった。他の地区がやっているように、部員をグループに分け、小グループの話合いをもってはどうか。授業者から事前に授業の視点が示されると部会協議も焦点化され、深まりのある部会協議になったのではないか。

[砺波地区]

- アドバイザー講演の内容が分かりやすく好評であった。

V

[砺波地区]

- 小矢部市の部員数が少なく、他市と同様にローテーションされると、頻度が多くなってしまう。
- △初めて運営責任者や部長になった先生でも運営できるように、引継資料等があればよい。

<音楽部会>

I

<研究授業>

- 生徒との応答を通して生徒の学習意欲を高め、音楽表現に迫る展開や、音楽的技能の向上を図る手立てが参考になった（東部）。

○事前（夏季研修）に模擬授業を行ったことで、授業の視点や工夫改善点等が分かりやすくなり、研修の効果が上がった。（東部）

- 生徒と教師、生徒同士の対話的な授業展開が参考になった。（東部）
- 生徒の気づきが生かされた授業展開で、音や音楽による変容が見られた。（東部）
- 楽曲の細かに分析することで、音楽を形づくっている要素とその働きを関連付けていた。また、作曲者の意図を汲み取り、音楽表現に迫っていた。（東部）
- 楽譜を十分に読み込み、自分たちの表現につなげようと意欲的に取り組んでいた。（東部）
- CとDの違いを捉え、気づきを表現に結び付けることで学習意欲向上につながる。（東部）

○録音を通して、自分たちの学びを実感できるようになっていた。（東部・西部）

- 何を練習すればよいのか、何を書けばよいのか、生徒の音楽的な見方を促す教師の問いかけがよかった。（東部）

- 自分の思いを積極的に発表し、互いの考えを交換しながら表現の仕方について深めていく学習展開が参考になった。（東部）

- 生徒の発言を引き出すための教師の繰り返し発問や生徒の思いから表現をつくる学習展開がよかった。（東部）

○ねらいをしばった課題提示は効果的だった。（東部）

○拡大楽譜を用い、楽譜への書き込み等の工夫がされていた。（東部）

- 生徒が主体的に問題点を挙げ、話し合うことで理解されて共有されたと思う。
- 教師が適切に音楽用語に結びつけてまとめていた。作曲者の思いは、同じ歌詞であっても、旋律の重なり方や転調、強弱記号によって違うことが分かることを理解できていた。（東部）

○授業を観る視点等が明記されている質問用紙は効果的だった。（東部）

- 先生と生徒との温かい人間関係を感じとることができ、大切さを実感した。（東部）
- 全体で考えた表現をパートごとに確認する時間がよかった。（東部）
- 表現の工夫について考えを深める姿を見ることができた。（西部）
- 表現の工夫において、その根拠を楽譜上の表記だけでなく、歌詞や作者の思いから工夫している姿が見られたのは、前時までの歌詞の分析が生きていたと思う。（西部）
- 工夫をするポイントを共通理解する場を設けてパート練習に移ったことで、練習するポイントがしっかりと意識されていたと思う。（西部）
- 本時の課題を具現化するために歌唱部分を精選し話合いを行ったことは、パートの役割と強弱や構成、リズム等の音楽を形づくっている要素と結び付け、どのような表現にしたいかを生徒自身が考えるうえで有効だった。（西部）
- パート練習に向けて活動内容やポイントを具体的に指示していた。一人一人が目的意識をもって練習に取り組む支えとなっていた。（西部）

- 録音を比較鑑賞する活動は、工夫した部分に着目するよう具体的な指示があり、生徒自身が本時で学習を深められたかに気付くよい活動だった。(西部)
- 生徒の思いや意図に合った表現を目指し工夫する過程で、**以前と変容したことを価値付けること**で生徒が学びを実感することができていた。(西部)

<研究協議>

- 日頃の自分の授業を振り返ることができ、今後の実践につながる講習会であった。(東部)
- 新学習指導要領についての具体的なイメージがもてた。とても分かりやすく前向きな気持ちになった。(東部)

<授業力向上のためのアドバイザーによる講義>

- アドバイザーの講演で「音楽科」の授業や使命について学ぶことができてよかった。(西部)
- 齊藤先生の講義で、新学習指導要領の音楽科の目標や「音楽的な見方・考え方」について、さらに(前回、昨年の県音研よりも)詳しく教えていただいた。(西部)**
- 「音楽的な見方・考え方」や「題材の目標と題材の評価規準の関係」について具体的な例を提示していただき、教師が何を意識して授業実践すればよいか明白になった。また、音楽科の存在意義についても再考するよい機会となった。(西部)

II

<研究授業>

- 「学び合い」の場面を増やし、子供自身の疑問や気づきからそれぞれが考える状況をいかにつくるか。**(東部)

- 研究授業に際しての授業者の負担(指導案、掲示物、機材の準備、生徒の育成等)が非常に大きい。(東部)
- 拡大楽譜や黒板掲示では、掲示の仕方や大きさにもう少し配慮が必要。(東部)
- 表現効果を聴かせ、生徒が客観的に判断することも必要。(東部)
- パート練習を行う際の場所の確保、方法(音取りの手段)などの支援が必要。(東部)
- 生徒が歌いやすく、表現を深めやすい楽曲の選曲が必要。(東部)
- 時期的に合唱となるのは仕方がないが、違う単元の取組についても学びたい。(東部)
- グループ学習における生徒の目的意識が高まるような手立てや声掛けが必要。(西部)
- 生徒が曲と出会ったときの気持ちや感受したことを大いに引き出し、感受をベースにして知覚した要素に着目しながら、様々な表現を試していくことができるよう学習展開を工夫する必要があると感じた。(西部)
- 感受と知覚との関わりが新学習指導要領では重視されており、思考・判断・表現する一連の過程を大切に学習展開について、更に研究を進めていく必要性を感じた。(西部)
- 実際にどのように生徒を評価するのかは分からなかった。この部分について、もう少し詳しく学ぶことができたありがたい。(西部)
- 表現の創意工夫の評価の方法は、ワークシートだけでは計りきれないところがあった。観察も限界がある。映像記録等、いろいろな手段の検討が必要である。(西部)
- グループ活動(パート練習)を取り入れ、表現の工夫を試行錯誤する活動は効果的であるが、教師がその場を離れたときに、生徒のこだわりや気づきを拾い切れないのはもったいないと感じた。(西部)

△授業の流れや教師の支援、指導のポイントといった**協議の視点を明確にした提案授業**をしてほしい。

(東部・西部)

- 合唱コンクールに向けての授業は教師主導で進めることが多いが、的を絞って表現を工夫させたことで考える内容も精選され、いきいきと活動する生徒たちを見られて、自分の学校でも実践してみたくなった。(西部)
- 録音機材を充実させ、すぐ聴き比べすることで実感できると思った。(西部)
- 学校行事と関連した音楽の授業の在り方について改めて考えることができた。(西部)
- 音楽表現が苦手な生徒に対して、どのような手立てを講じていけばよいかについて引き続き検討が必要。(西部)
- 授業で意見を言わなかった生徒たちの思いをどう全体につなげていくのかを工夫したい。(西部)
- 録音を聴いて思ったことをどこに応用できるか確認すれば、本時の学びがさらに生かされた。(西部)
- 合唱全体における各パートの旋律の重なり方が、曲想に対してどのような役割を担っているかを考えた上で、パート練習を進めたい。(西部)

<研究協議>

- グループ協議等のより多くの意見を引き出す協議の方法の検討が必要。(東部)
- 効率よく研究主題に迫るため、協議内容をより明確にしておくことが必要。(東部)
- 生徒の実態や能力に応じた選曲や課題提示をすることが大切。(東部)
- 合唱の仕上がり状態に応じたパート練習の仕方を工夫する必要がある。(東部)
- △生徒の「こんなふうに歌いたい」という思いが強いほど、技術面での指導の必要性が大きくなる。生徒の思いを実現させるために、技術面での助言やそれを試す時間があってもよかったのでは・・・と思った。(東部)

III

1 会場郡市、会場校の決定

△**新川地区のローテーションを次年度こそ減らしてほしい。学校の統合によりさらに部員が減る。部員数が少ない郡市、講師が多い郡市への研究授業の負担を考えてほしい。**
△**部員が以前より減っている中、現在のローテーションでは厳しい。**

2 地区研究会

△事前協議（事前トライ等）を重ね、授業者のフォローができるとうよい。

3 資料の編集及び事前研修会

○導案作成に早く取りかかることができたため、指導案を複数回検討することができた。
△大会後のアンケートの回収方法を事前に連絡してほしい。
●授業会場の学習環境をよく確認しておく必要があった。（音響機器等について）

IV

1 運営分担や日程

●開始時間を少し遅らせてほしい。

2 研究授業

△**新学習指導要領に沿った具体的な授業展開や評価についての研修があるとよい。**

○合唱の授業でのリーダー育成やパート練習のあり方について参考になった。（東部）

△今後、ICTの活用に関する研修があればよい。

△毎年同じ時期に研究大会が開催されているため、いつも同じような領域の授業になっている。時期を教科によって変更できないか。

4 研究協議

●今回はグループによる協議ではなかったが、深まりのある有意義な協議会のあり方、進め方の工夫が必要である。

○グループ協議は、全員が発言することのよさがあるが、今回の協議会は、全員が発言しなくても十分に深まりのある協議会になったと思う。若手の先生方の率直な感想、西部地区から参加された2人の先生方やベテランの先生方からの的を射た指摘で、今回の研究授業での良い点や改善点が明確になり、十分に深まりのある協議会となったと思う。（東部）

△前回のようなグループ協議（前回のグループ構成は、他地区や幅広い年齢が混じるといった工夫）の方がよいのではないか。（西部）

○指導主事の講義は、学習指導要領をもう一度しっかり見直して授業にのぞまなければいけないなど思わせていただくことができてよかった。（東部）

○「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動の工夫について、具体的な例を挙げていただき、参考になった。（東部）

○指導主事の先生の話は、学習指導要領の解説をわかりやすく説明してくださったので、今まで理解できなかったことも確認することができた。（東部）

△学習指導要領の改訂に向けて、もっと学ぶ場があればよい。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

○授業力向上のための講義が、とても分かりやすく参考になった。

△**大変分かりやすい内容で勉強になった。できれば毎年あってほしいが、講義がない年には講義録や資料を配布するなど、内容が東西で共有できるとよい。**

△新学習指導要領についての研修が引き続き行われると自分自身の勉強になるのでお願いしたい。

△大変分かりやすく、新学習指導要領への対応・考え方がよく分かった。今後もこのような講義を受けて、情報を知りたい。

△アドバイザーの先生との意見交換の場がほしい。

△東西に同じ話を聞くことができれば、次年度の研究計画にも生かすことができる。ぜひ全会員が同じ話を聞くことができるようにしてほしい。

V

○**今年度、他郡市との合同研修は大変よかった。今後も合同で行いたい。**

○市町村部会は少人数で構成されているため、研修には限界がある。本研究大会は、授業力向上のためのアドバイザーや指導主事の先生方の指導助言や、音楽科教師の意見交流から多くを学べる貴重な機会。今後も研究大会をスキルアップの場としたい。

●授業研究はもちろん、教師自身が専門とする領域だけでなく、我が国や郷土の伝統音楽等に積極的に関わりスキルアップしていく必要がある。

<美術部会>

I

東部

<題材>

- プレゼントを渡す相手と伝えたいメッセージを考えさせることで、作品制作上の工夫点を考えやすくなっていた。
- 基本が白一色という和紙を使ったラッピングに違いを付けるのは難しかったと思うが、和紙の材質や折り方、折り方、水引の活用等でアイデアに幅をもたせており、更なる可能性を感じさせる題材であった。
- 地域の伝統文化を体験することが少なくなっているもので、紙すきの体験はもとより、地元でつくられたものを活用する一連の流れは、生徒の学びが深まる素晴らしい展開であった。

<素材>

- 八尾和紙という地元伝統であり特産である八尾和紙をテーマにした授業は、生徒にとってこれからの生活や成長に大切である。
- 紙漉きの体験から始まった八尾の伝統的な和紙を使った授業では、**生徒は自分の住む地域の産業に、より価値を見出しながら制作できたのではないか**と思う。
- 和紙の体験実習、相手に贈ることを想像してラッピングを工夫するなど難しいテーマだったが、地域性や相手のことを考えた美術制作を通して、子供たちは伝統や文化を学んでいると思った。
- 和紙の紙すき体験を事前に行うことで、与えられた紙を使うだけでなく、和紙の成り立ちや特性を意識して制作に取り組むことができ、和紙という素材の深い理解につながった。
- 水引きがカラフルで、和紙の白さに映えていた。細いため、組紐やミサンガのように編んでより映えるように工夫する生徒が多かった。

<生徒の意欲を高める・発想を刺激する>

- 和紙文庫の見学や桂樹舎での和紙すき体験のおかげで、生徒に課題意識が生まれ、金沢での班別学習の際、「包む」という視点で見学する姿につながった。
- 教師の試作（折り方や重ね方）の参考例が掲示してあり、生徒がイメージをもちやすく、制作する上で参考になった。
- 和紙の種類が増えたこと、他の紙や水引等の使用が可になったことで、生徒の発想の幅が広がった。
- プレゼントの一部を見せる包み方を紹介することで、表現の幅が広がった。
- 和紙の扱い方・接着の方法・両面テープの使い方・切る方法等について、付箋紙を活用して掲示することで、生徒が主体的に必要な情報を収集し、学び合えるように工夫されていた。
- 美術室内の環境整備が素晴らしかった。これまでの授業の流れや既習事項、和紙の折り方の参考作品等が展示もされており、生徒たちが自分たちの制作の道筋を振り返られるようになっていた。

<教師の姿勢や学級の雰囲気等>

- 教師の教材研究の熱心が伝わってきた。生徒の制作意欲につながっている。
- 一人一人の生徒への言葉がけを大切にしておられ、好感がもてた。
- ワークシートに、教師の丁寧なコメントが書いてあり、素晴らしいと思った。
- 生徒同士仲がよく、互いに自由にアドバイスし合って制作に生かしている姿がほほえましかった。
- 自由な話し合いにした分、質問や教え合いの雰囲気がよかった。制作に生かす姿がみられた。
- 学級全体の雰囲気がとてもよかった。生徒同士の関係だけでなく、先生と生徒の関係もよく、生徒が自分の制作に集中できる環境が整っていた。また、生徒同士で教え合い、学び合う関係もみられ、これまでの先生の指導の丁寧さが感じられた。

西部

<題材>

- 鑑賞の授業での工夫が大変参考になった。「直感」「分析」「総合的」鑑賞と三段階で鑑賞を進める鑑賞は、**自分の授業を見直す面でよかった**。また、優れた事例を提示していただき大変に参考になった。
- 比較鑑賞のテーマとして、同じ題名の作品の比較、西洋と東洋の表現方法の比較等、工夫されていることが印象に残った。
- 教科書が違うので、鑑賞として取り上げたことがなかった題材であり興味深く考えることができた。様々な視点がある中で、教師のねらいがはっきりしていたことで、生徒の課題解決がスムーズにいったと考える。
- 全国的にも珍しい「鑑賞」の授業を提案してくださったことにより、多くのことを学ぶことができた。
- 1学期から絵を見ることの楽しさを大切に、鑑賞の授業を積み重ねていることが、今回の生徒の姿につながっている。
- 複数作品の比較鑑賞ができない単独作品の鑑賞でも、**比較する視点を設定する**ことで、生徒の考えを広めたり、深めたりすることができる。
- 生徒が興味をもちやすく、教師が育てたい力の育成に適した鑑賞作品を選定することが大切である。
- 研究主題1年目の「知識及び技能」に関する研究を進めることができた。授業では、生徒の意見を通して、自然に美術の知識や技能を探ることができていた。次に、生徒が表現活動に取り組むときに、表現意図と構図の関連を意識して活動することが期待される。

<生徒の学習意欲を高める>

- 比較鑑賞により、類似点や相違点を見付け出したり、人物の心情を台詞で考えたりすることは、鑑賞の授業における効果的な指導方法だと思われる。生徒は、抵抗なく鑑賞活動に取り組むことができた。
- 作者が表現しているものを丁寧にひろっていくことで、生徒はより作品を見ることができた。また、他

の生徒の意見を聞くことで、より自分の見方を広めたり深めたりできる。

- 鑑賞をよりよいものにするためには、ワークシートに自分の考えを書かせてから全体で話し合ったり、「セリフを考える」という楽しさのある学習活動を工夫したりすることが有効である。
- 生徒の考えを引き出す雰囲気や言葉かけが勉強になった。テレビが2台あり、別々のことを映し出すことができるのは、美術科として有効だと思った。部分をアップできたり、線を引くことができたりして効果的であったと思う。

〈学習活動〉

- 構造的な板書により、黒人側と白人側で自然に比較して見る視点ができている。
- 予想されるキーワードをあらかじめマグネットで準備しておき、先生は話し合いの中で適宜活用されていた。**キーワードを基に、話し合いが深まるきっかけとなっていた。

〈教師の姿勢や学級の雰囲気等〉

- 生徒たちとじっくりと作品を味わう時間をつくり出している授業を拝見することができ、とても参考になった。
- 生徒との関わりの中で授業を進めることが大切だと感じた。教師の語り口や言葉かけ、心の底からの承認等が、安心して何でも言える雰囲気づくりにつながったのではないか。
- 常に「どこからそう思う？」という切り返しの発問があり、見た印象の中に美術的な見方・考え方の根拠を求めるよう配慮されていた。

〈授業力向上のためのアドバイザー講義〉

- 新指導要領に照らし合わせて、今後の授業づくりにおける大切なことを理解することができ、有意義なものであった。
- 鑑賞の授業づくりにおけるポイントを詳しく知ることができた。
- 東良先生の講義では、研究授業をベースに、今、行うべき鑑賞教育について分かりやすく指導していただいた。
- アドバイザーの講義の中では、授業での生徒の様子を具体的に示しながら、育成したい資質・能力について話して下さったので、これからの授業に生かすことができる。**
- 特に印象に残ったのは、「**教科等の本質に迫れているか**」「**美術の力を育てるためにもものをつくったり、鑑賞したりしているか**」である。このキーワードを念頭に、今後、美術の授業を進めていきたい。
- 「活動・授業のねらい」を明確にしておくこと、指導要領のどの部分を育成するのか、この視点を外してはならない。
- 「見ているけれど見ていない」という生徒ではなく、「見たら気付ける生徒」を育てなければならない。造形的な視点を与えるような授業を仕組むことが大切である。
- 「美術でないと育てられない力がある。それを踏まえながら授業の中で効果的な教育がなされているか」「生徒をよく知っている教師が、実態を把握して授業をつくり上げることが大切」「**感性を豊かにするためには、視点を与えて気付かせる取組が必要**」等、ご教示いただいた。
- 鑑賞において、視点をもとに生徒が新たに発見し、気付くことに導くのは教師である。生徒の自由な見方や感じ方を大切に、生徒のことを一番知っている教師が自信をもって授業を行うことが大切である。
- ねらいに即し、また生徒が主体的に取り組もうとする鑑賞の参考作品を選定することが必要である。
- 鑑賞と表現をどう結び付けるか、表現や鑑賞をすることと美術の本質とがどう関わっているかを考えなければならない。
- 形や色、イメージは生まれてから死ぬまで関わる。造形的な視点で物事を捉えることができれば、生徒の生きていく力となる。今後、さらに考えていきたい。
- 新学習指導要領完全実施後は3観点の評価となるが、現在の4観点を活かすことができる。そのためにも、4観点での評価を、生徒の学習改善や教師の授業改善にどうつないでいくかを見直す必要がある。

II

東部

〈学習課題〉

- 今回の授業で「より深く」相手に伝えるための工夫を考えるとということであったが、「より深く」をどのようにとらえるか、少し難しかったのではないかと思います。どのように工夫した生徒が「より深く」相手に伝えることができているのか、ゴールが見えにくい課題だったように思う。もう少し具体的に目標の設定をしてあげれば生徒たちも迷うことなく制作に取り組むことができたのではないかと。
- △誰に贈るものなのか、何を贈るのかといったことを十分に考えさせることが、作品への生徒の思いの強さにつながっていくのではないかと。

〈学習活動〉

- 和紙の厚み、色、模様を生かし方や折りや重ねの効果、さらに、水引という和紙以外の素材の活用方法等、考えなくてはいけない造形要素が多く、自由で柔軟な作品づくりができる反面、やや難しいように感じた。
- 制作途中であっても、全体に説明する必要があるれば、手を止めさせて伝える必要があった。
- 生徒の書いたものや制作したもの、試作したものを授業の展開にどう生かすか。
- 話し合いの時間と制作の時間を区別し、集中して制作できる時間の確保が必要である。
- 生徒同士が深くかかわりながら活動を行っているのはとてもよかった。しかし、友達の制作をずっと手伝っている生徒もいた。個の制作の時間を確保し、自分自身の課題に集中して向き合う時間があるとよかった。
- △**3～4人のグループを工夫して、「横の人と」、「前後の人と」、「席を離れて」アドバイスし合う時間を分けることで、ぼつんとした生徒を出さないことができるのではないかと。**

- △自分が困っているところを話すことで、よい話し合いになる。
- △和紙の折り目に「あたり」をつける指導があると、安心して進められたのではないかと。
- △生徒の発表の時間をもう少し確保したい。

〈制作環境〉

- 制作場所が確保されていない生徒が多く、机上整理の指導が必要であった。
- △机の向きを変えてグループをつくることで机上の整理と制作スペースの確保が図れる。
- △本番に使用する用紙の条件を明確に理解していない生徒のために、黒板に掲示するなどの工夫があるとよかった。
- △制作における大事なポイントを、板書しておいてもよかった。
- △本番に使用する和紙の条件を理解していない生徒のために、黒板に掲示しておくなどの工夫があるとよかった。

〈評価〉

- 試行錯誤しながら和紙を折っていると、次第によれてくる。評価が難しいのではないかと。
- 評価の基準をどうするのか？作品にいろいろな要素がある分、難しいと思った。
- 生徒の多様な表現について、指導のねらいを教師が明確にもち、評価の方法を検討していく必要があると改めて感じた。

西部

〈題材〉

- △鑑賞にはいろいろな題材、取り上げ方、切り口等があり、様々な工夫ができる。同じ題名でも作者が違う「泣く女」、作者・描かれている場所・時代の違う「夜の風景」等を比較することも有効である。絵画に限らず、デザインや工芸でも、いろいろな角度で考えられる。
- △美術科独自の鑑賞の在り方の研究を進めていきたい。
- △3か年を見通した計画や表現活動との関連の中で、鑑賞の指導計画を練る必要がある。鑑賞でのねらいを明確にし、それにあった作品の選定、鑑賞の進め方を工夫する。

〈ねらい〉

- △授業のねらいを明確にしていく必要がある。単なる知識の押しつけにならないように、生徒の感じる力を育てるための授業を工夫していきたい。

〈学習活動〉

- △鑑賞の授業の際、普段より板書をする人が多いので、漢字等が不明瞭な場合がある。すぐ対応できるようにiPad等を手元に置いておくと授業の流れを損なわないと思う。

〈授業力向上のためのアドバイザー講義〉

- △アドバイザーの講義時間を十分に確保するために、講義後の質疑応答をすることができなかったが、いろいろと質問したい先生方もいたのではないかと思う。折角のこの機会なので、直接質問できる時間をとることができればよいと思う。（今回は、台風の影響で早くお帰りいただく必要があったが）

〈研修〉

- △今回はベテランの先生の研究授業だったが、今後若手が研究授業をする際のために、指導案に関して全体で協議や研修を深める時間があればよいと思う。

III

1 資料の編集及び事前研修会

- 時間も回数も必要十分だった。（東部）
- 8月の指導案検討、事後の協議会、研究発表、研修の方法、内容ともにそれぞれよかった。（東部）
- 城端中学校での全体打合せ会は、出張回数が増えるだけでなく、移動距離も短くなりよかった。（西部）
- 今年度8月の会合（全体会）が削減された。多忙化解消に向け地区協議会で吸収できるものはできたので、成果であると思う。（西部）

2 資料の製本や配布 等

- △資料の製本・配布のためだけに4名の部長が参加する必要を感じなかった。新川地区から2名でも対応できる。（東部）

IV

東部

1 運営分担や日程

- 富山市でいろいろと行ってもらい、助かった。日程的にもよかった。
- グループ協議と発表の時間が確保されていたことはよかった。グループ毎に話し合った内容が違うため、大変参考になった。
- 部会協議①に、十分な時間が取れたことがよかった。
- 理科室での部会協議は、広さが適切で、机の移動もなくよかった。スクリーンも見やすかった。
- 集合時間が早い。研修の分量もあるが、屋食をとる時間もないので、もう15分遅ければ、遠い学校は助かる。（本校の時間設定の問題でもあるが）

2 研究授業

- △指導主事の先生に事前に指導を受けるのはよいと思うが、それによって変更するときは、部長や副部长等に相談するとよい。事前の指導案から変わっていた。

3 研究発表

- お二人の発表とも、画像や映像が用意されており、分かりやすくよかった。
- 今年の発表は、それぞれ個性的な内容で参考になった。TV番組の内容が参考になった。パネルの扱い

についての考えを共有できてよかった。

○若い先生の研究発表に対して、多くの先生がアドバイスをしてくださっていてとても心強かった。

△現在、富山市で研究授業を担当される際、新川地区が発表を担当することになっているが、部員数が少なく、今後は同じ人が発表することになっていく。富山市の部員の方の発表も見てみたい。

△研究発表では、一人が全体の場で発表するのもよいが、「グループ単位で、テーマに沿って授業の悩みを意見交換し合う場」を設定する形でも有意義なものになるのではないか。

△研究発表でDVDを用いてデザイントークスのテレビ番組を見ていただいたが、音声小さかった。プロジェクターのスピーカー機能を使えばよかった。

4 研究協議

○グループで付箋を使用して話し合う形式が定着してきており、深い話し合いができてよかった。

●研修でのグループ活動は有効であり、グループでの話し合いは盛り上がる。しかし、話し合いの発表後、時間がないので意見交換にならないのが残念。

○部会協議①の時間を70分にしたので、班の話し合いと全体でのシェア、指導助言の時間が適度にとれた。時間に追われることなく、しっかりと聞くことができた。部会協議②の時間を45分と短めにしてくれたので、発表者の心理的負担の軽減が図れた。

△指導助言は、協議の終末に講語的に行うだけでなく、協議の最中にもあれば、より深い内容の協議につながるのではないか。

西部

1 運営分担や日程

○会場校の福田校長先生をはじめ諸先生方には、会場準備等、ご配慮いただき感謝の気持ちでいっぱいである。

△個人的な研究だけでなく、任された地区で検討し、様々なやり方を工夫することもよいのではないか。地区で協力して研究している題材、地区の写生会、地区で行った実技講座の紹介、各地区へ自画像の作品を持ち寄ることを呼びかけ、それに関しての話し合いをする。

2 研究協議

○授業のねらいと手立て、それに対する生徒の学び等、ポイントを絞って協議を進めることで、更に協議会が深まるように感じた。

△研究協議は、これまで自由な発言によって進められてきた。専門的な知識や研鑽の上の意見で大変勉強になる。しかし、授業の視点や授業者の学びたいことからずれてしまったり、発言者に偏りが見られたりする場合もある。ポイントを絞って話し合ったり、グループで協議し、多くの部員の意見を吸い上げたりする機会もあればよいと感じた。

△より多くの参加者の意見を吸い上げるために、付箋紙を使ったグループ討議等の方法も考えられる。

△全体での協議形式のため、各自の意見集約が難しい。短時間でもグループトークなどの時間があれば、若い先生も含め参加できる時間が増える。

3 授業力向上のためのアドバイザー講義

△講義のレジュメを配布してもらえるとありがたい。

V

東部

○次年度も、中新川、滑川合同で協議会を行っていきたい。

△黒部では来年度の中学校統合で4中学校が2校になり、美術の教員が2名になる可能性がある。研究大会の授業者が黒部市の部員であることから、研修は近隣の市と一緒にいる等工夫が必要である。

△過去の資料を電子データ化して保存し、アーカイブを常に閲覧できるようにしてほしい。

西部

●砺波地区全体では、定年を控えたベテランの美術科教員が多いため、ここ数年以内には新規採用教員等へと入れ替わり、年齢構成が大きく変わる。これまでは、長年培われてきた指導法を若手へ伝授したり、ベテランの授業を見て若手が学んだりできたが、今後ベテラン教員が急激に減少すると、そのような貴重な機会もなくなってしまう。早急に、何らかの対応策を講じる必要がある。

△「授業力向上のためのアドバイザー事業」は隔年で行われているが、ぜひ毎年聞かせていただきたい。特に、新学習指導要領へ移行するこの時期は、分からないこともや迷うことも多いので、何度でも講義を受け、理解に努めたいと思う。

△アドバイザーによる講義は今後も継続することが望ましい。可能ならば、東西交互ではなく、毎年どの地区でも開催されることが、なお望ましい。

△昨年度も要望したが、アドバイザーを東西隔年で呼ぶのではなく、2日間にわたり来ていただき、講演が聴けた方がよい。(特に指導要領改訂の時期に、1年間のタイムロスが出るため)

<保健体育部会>

I

[新川]

○男女共修の授業であったが、男女が協力して授業を進めていた。

○バレーボール経験者が各班にいたことで、各班の練習や試合をリードしていた。

○新品のボールを使っていたことで、生徒のモチベーションが上がっていた。

[富山]

○前年度6月にも、同じ先生が同じ学年の剣道の授業を行い、部会で協議を行って。そのお陰で、前年度からの生徒の変化を見ることができた。

[高岡]

○新学習指導要領実施に向けて、指導案の指導計画に工夫があり、今後の参考となった。

○生徒同士の教え合いの時間が確保されていた。

[砺波]

○**個人のワークシートとグループのワークシートがあり、自分やチームのペースが蓄積してあり、分かりやすかった。**

○長距離走が苦手な生徒に配慮した学習活動で、生徒が意欲的に取り組んでいた。

II

[新川]

●タイムマネジメントをしっかりと。時間内に「まとめ」「振り返り」を終わることが重要である。

●部会協議Ⅰの時間がもう少しあるとよい。

[富山]

●富山市内で、剣道の授業を実施している学校が3校のみであるため、実感がわからない先生が多かった。

[高岡]

●**ICT機器の使い方に工夫が必要である。タブレットで録画し、それを見ただけでは、ICT機器を使ったことにならない。**

●生徒の話し合いが深まるような教師の発問や声かけがあるとよかった。

[砺波]

●運動の苦手な生徒に焦点を当てた授業だったので、運動量、運動時間が十分でなかった。

●分かりやすいラップタイムの伝え方を事前に指導しておけばよかった。

III

4 資料の製本や配布 等

・**指導案製本のために、各市の代表者が会場校へ集まるのが非常に困難であるとの意見があった。できれば、会場校の会場責任者で印刷製本できないか。**

IV

4 研究協議

・学力向上アドバイザーの講演があると、部会協議Ⅰの時間がどうしても少なくなってしまう。工夫が必要である。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

・学力向上アドバイザーより、新学習指導要領について、年間指導計画の立て方が詳しく説明された。

V

●**前任者からの引継書類が全くなかった（部会責任者）。紙媒体とデータでの引継が必要である。**

<技術・家庭（技術）部会>

I

[東部地区]

○研究授業では、実習を行わず、学習班での話し合いを進める授業スタイルを見ることができて、今後の参考になった。ワークシートへの書き込み等、教師の事前準備が丁寧だったこと、後輩へのアドバイスという課題設定が明確だったことが、生徒同士の活発な話し合い、学び合いにつながった。

○**土嚢袋を使っての生物育成は、学校農園等農地がない学校での取組として、大変参考になった。**

○研究発表では、ジャガイモを大きく、数多く収穫しようとする課題設定が生徒にとって分かりやすく、取り組みの意欲付けにつながっていた。

○研究主題の解明に向け、問題解決的な学習を中心とした研究が行われていた。

[西部地区]

○研究授業では、位置エネルギーを利用した発電の学習を、小水力発電へとつなげ、現代の私たちの生活に関連付けることができた。また、新しい「設計型教材」を大変有効に活用していた。生徒が最適解を求めて、主体的・対話的に取り組む要素が満たされていた。

○研究発表では、マイクロビットを使って四輪車を動かすという新しい取組を発展させ、現代の私たちの生活に関連付けていた。また、男女や得意不得意の差に関係なく、協働的に活動できる工夫がなされていた。

○**「マンダラート」を用いて思考を膨らませる手法は、今後の問題解決的な学習の手法として有効な手立てとなるのではないか。**

II

[東部地区]

△主体的・対話的で深い学びの実現につながる話し合い活動を行うには、日頃から話し合いやKJ法等に慣れておく必要がある。

●技能を適切に評価するための評価規準を作成する必要がある。

△生物育成に関する技術を学習するには、水産や畜産関係の他機関（県水産試験場、中央農業高校等）との連携を考えていく必要がある。

[西部地区]

●エネルギー変換の学習内容は、理科等他教科と連携し、棲み分けをする必要がある。

●情報の学習（特にプログラミング）では、小学校でどのような学習内容を学んでいるか確認する必要がある。

△学校によって学習環境に差がでないように、教材・教具の充実が望まれる。

III

[両地区]

●会場郡市、会場校の決定において、各郡市の部員数、地区による人数の偏りが目立ってきた。研究授業のローテーション、全県での研究大会等、見直しや改善が必要である。

IV

[東部地区]

△毎年行っている研究発表を、ユニークな教材や題材、工夫された取組等の情報交換を目的とする場に変えてよいのでは。

V

[東部地区]

△東西交流をもっと活発にし、互いに学び合えるようにする。

[西部地区]

△部員数の減少により、高岡市・射水市・氷見市が「高岡地区」として、「D情報の技術」に関する研究を合同で進めている。他の郡市においても、今後、このような形が必要となってくるのでは。

<技術・家庭（家庭）部会>

I

<東部地区>

○1年での学習をもとに学習を進めることで、生徒が課題に取り組みやすかった。

○家庭でも振り返ることができる内容であった。

○生徒の実態（行事食を知っているが、意味は知らないという逆転現象）を捉えて、生徒に何を身に付けさせたいのかが明確であった。

○1年からの学習、前時の栄養教諭との授業、本時の思考ツール（同心円チャート）の活用の流れは有効だった。

○思考ツールを活用することにより、自分を中心として、他者との違いを比較することで、考えをまとめることができたのではないか。

○思考ツールを使った流れ「自分→グループ（新たな気付き）→選択（異なる見方）」によって、色々な角度から見る事ができた。また、視覚的にも有効だった。

○「点」として知っていたことから知識（食材、地域性、調理、願い等）が広がり、「多面的」見ることができるようになった。文化を引き継ぐ、先祖や地域について考えることにより「多角的」に考えることができた。

○身近な教材から広がりのある授業だった。

○身近な題材であり、生徒が興味をもって参加していた。書いていなくても話し合いには参加している生徒がいた。友人の意見に驚く姿はとともよかった。

○同心円ツールやホワイトシートの活用等、今後の授業で取り入れられるものが参考になった。

○考察は問いを明確にしていたので、生徒は考えやすかった。

○同心円チャートの3つの視点が、生徒自身の分類やその時間のポイントとして分かりやすかった。

○日本の食文化として残していくべきことが何なのか考えさせられました。

○雑煮等、伝統的な食事は作り方が複雑だったり、時間がかかったりして作らなくなってしまう傾向にある。

しかし、本時のように、食材の意味や地域の特徴を話し合いや他の人の意見を聞いてよさを感じる活動を通して、伝統食を今後大事にし、受け継いでいくと思われる。家庭科の授業として、とても意義のある内容であり、参考になった。

○話し合いの場面では、自分の知らない具材の意味や効果等を聞いて「そうなんだ」「いいね」と他者を認める場面が見られ、お雑煮に対する興味・関心が深まったようだ。

<西部地区>

○金銭の管理、クレジットについては、新学習指導要領の先行内容であり、教科書がないなか非常に提案性の高い授業であった。

○今日的な課題である「キャッシュレス」について取り上げた授業であり、生徒にとっても大変興味がわく授業であった。

○支払い方法だけでなく、インターネット販売という購入方法の問題点を踏まえながら、商品の購入について考えさせる学習活動が、よく検討されており、良かった。

○A君というモデルを設定したことで学習課題にストーリー性が生まれ、生徒は近い将来の自分事として捉えながら学習課題に取り組むことができた。

○前時までに、支払い方法について情報収集や情報交換をするなど時間をかけて活動を進めてきたおかげで、生徒は自信と根拠をもって生き生きと話し合い活動や発表を行っていた。

- 生徒の思考を深めたり、広げたりする教師の発問がとてもよかった。
- 生徒が主体的に考え、学び合う授業とはどういう授業か学ぶことができた。
- 視覚に訴える教具の効果を、授業を通して実感できた。**
- 生徒たちはこれからキャッシュレス決済があたり前になるであろう社会で生活していかなければいけなくなるので、この授業は、生活に直結していくものであったと思う。
- ストーリーのある設定であり、利点、欠点に現実味があり**よかった。しかし、アルバイト経験がないせいもあり、13,000円が大金であるという実感がうすいように感じた。金銭感覚の乏しい中学生には難しい分野であると改めて感じた。
- 支払い方法を選んだ理由を班や学級で話し合うことで、それぞれの特徴と注意することについての理解が深まっていった。まとめでは、それぞれ自分の生活に振り返って考えていた。
- 効果的な教室の掲示物が用意されており、前時の学習の内容が本時に生かされていた。ぜひ参考にしたい。
- 新しい分野の授業だったが、よく研究され、資料もしっかりと準備されていた授業であった。

II

<東部地区>

- △座席表に班の囲みと数字が記されていると分かりやすかった。
- △出された意見にも班の番号が記されていると生徒たちも分かりやすかった。
- △視覚に訴えるような工夫があると、一目で見て分かるので写真等を活用するとよいと思う。
- △**家庭での食生活と深い関わりがある題材なので、保護者対象のアンケートもあったらよかった。**
- △理由を書く枠があってもよかったのではないかな。
- △知らない食材（他県で使われるもの、名前を知らずに食べているもの）について、写真や生徒の説明があればよかった。
- 授業時数が限られる中で、小中高を通して、「無駄なく、抜けなく」指導するための内容と配列を考える必要がある。
- △他者との対話や協働を大切にす授業を心がけていく必要があるので、全体での話し合いの時間を多く取るようにしていくとよい。
- △グループでの協議の時間がもっとあればよい。
- 時間をかけて取り組んできた授業なのに、協議をする時間が短い。
- △**グループでの協議の時間がもっとあればよい。**
- △**オリエンテーションの時間をとった方が、分かりやすい。**

<西部地区>

- 全体計画をもっと丁寧に考えるとよかったのではないかな。
- キャッシュレス化が進む中、まだ現金払いを選ぶ生徒が多いのが実情なのだ改めて分かった。しかし、それではキャッシュレス社会に取り残され、どこかで失敗すると思う。
- 授業の生徒の話し合いの内容から、まだ、支払方法について理解できていないところもあった。現在、キャッシュカードの他にも様々なキャッシュレス決済の方法が増えている中で、正確な情報を、より生活に結び付けて生徒が理解できるようにするためには、教員が新たな情報をしっかり取り入れていく必要があると思った。
- 当日配付の資料に新たな視点等があったので、授業前に諸連絡があればよかった。
- △前時の指導案が掲示してあったが、見る時間がなく、本時の授業の参観になったので、可能であれば、本時の指導案を頂いた時に、一緒に頂けるとよかった。

III

- 会場校の協力態勢に感謝します。細かいところまでご配慮いただきました。
- 富山市の研究体制がすばらしく、深まりのある授業であった。
- 今年度、高岡市は市中教研大会と県中教研大会の2つの指導案について検討する必要があり、もう少し時間がとれるとよかった。

IV

<部会協議①について>

【東部地区】

- △他者との対話や協働を大切にす授業を心がけていく必要があるので、全体での話し合いの時間を多く取るようにしていくとよい。
- 視点を絞って協議することで、短時間で深まりのある協議をすることができた。
- 小グループで視点がはっきりした協議ができたのでよかった。
- グループで話し合ったので意見を言いやすかった。司会者、記録者も決まっていたのでスムーズであった。

【西部地区】

- 協議会で意見があまりでなかった。せつかくの機会なので他郡市の先生からもっと意見が出ると、活発な協議会になったのではないかな。
- 協議①であまり意見がでなかった。授業を改良するためだけの協議でなく、よかった点等を検証する場であってもよい。

<アドバイザーについて>

- 2年に1度最新の情報に触れることができ、エネルギーをいただけた。**
- 具体的な例について詳細な説明があり、分かりやすかった。
- 教師側が授業をデザインする力が大切になるが、これまで家庭科で実践してきたことだと言われ

安心して自信をもって取り組める。

- アドバイザーによる講演があるときの日程の組み方について賛否があった。
- アドバイザーの講義はとても勉強になるので、今後も続けてほしいです。
- 荒井先生の講演は、新しい情報を得るために非常に有効であった。
- 新学習指導要領のキーワードとなる「資質・能力」「どのように学ぶか」「問題解決的な学習」等について家庭科教育に置き換えて説明していただき、勉強になった。**
- 学びを構造化する具体例を紹介していただき、とても勉強になった。
- スウェーデンのパフォーマンス評価を紹介していただき、今後は評価についてもさらに研究する必要があると感じた。
- アドバイザーからの講義では、新学習指導要領に基づいた指導計画や指導方法について学ぶことができ、視野が広がり勉強になった。
- 「家庭科で学習したことが、様々な分野にわたって役に立ったり、生徒の死やを広げたりすることができたりすることができる」という視点は、家庭科を教えるための自信となった。

V

- 限られた部員で運営しているため、授業者・発表者の選出が難しい。
- △**技術・家庭科部会合同で、研究大会を実施してはどうか。実際に、小規模校では、免許外申請をして、双方の授業をしている人も多いので参考になると思います。同様に、「部会だより」等も併せてはどうか。**
- △**「東部地区」「西部地区」というくくりではなく、県で一つの研究授業にしてはどうか。**
- △家庭科教員が少なくなり、学校でも一人しかいないため、このような研修会や情報交換の機会はとてもありがたい。今後も地区ごとで協力してやっていきたい。
- 部員数が減り、市中教研、県中教研、負担が大きくなっている。研修の回数を減らす工夫はできないか。
- △**部員数が少ないため、二市一郡もしくは三市二郡での開催を希望します。**
- △同じ職場に複数いるわけではないため、相談する機会が少ない。また、正規の家庭科教員がいない学校もあるため、家庭科の授業方法や年間指導計画等の情報交換の場や情報を共有できる手段があればよいと思う。
- 人数の少ない郡市もこれから増えてくると思うので、授業研究や大会運営のあり方を工夫する必要がある。

<英語部会>

I

- 場面設定が明確で、話す・聞く・書くなどの活動に必要感があつた。
- 活動の目的を明確にしたことで生徒は楽しく意欲的に活動していた。
- ICTを効果的に活用することによって生徒の集中力が増し、理解度が高まった。**
- 教材をサーバー上で共有することによって、全体的に教材準備の時間が短縮できる。**

II

- 部会協議、グループ討議の時間が短い。
- 最近「即興」という学習活動に目を奪われがちだが、全国学力・学習状況調査の結果から、読む・聞くという力を高める指導方法も研究する必要がある。**

III

- 1 会場郡市、会場校の決定
 - ・授業会場が広く、生徒も活動しやすかった。また、生徒の様子も観察しやすかった。

IV

- 時間を有効に活用するためにも、以下の点が有効であった。
 - ・部会協議における授業参観の視点を1つか2つに絞ること
 - ・事前にグループの編成や役割(司会、記録等)を決めておくこと
- 「ふせん」をどう用いるか、どのように協議を進めるかを検討する余地がある。

V

- 教科書の内容を中心に扱う授業を見ることができてよかった。
- 指導助言で、校区の小中学校での取組を知ることや、小中の学びを接続していく大切さを教えていただいた。
- 学力向上アドバイザーの講義は、学習指導要領のポイントや、主体的・対話的で深い学びに基づく授業改善について知るよい機会である。
- 同じ学力向上アドバイザーが何年も続くと、話の内容が固定化されてしまう。**
- 巡回者(中教研事務局、県教委、市教委)の対応に時間が取られ、授業をゆっくりと参観できなかった。
- 巡回者(中教研事務局、県教委)のスケジュールを会場校へも知らせてほしい。

<道徳部会>

I

【東部地区】

- 構造的な板書が生徒の思考を助ける手立てとなっていた。
- 中心発問からねらいに迫ること、生徒の発言を生かした切り返しや問い返しを工夫することの大切さを改めて

感じた。

- 生徒と教師の信頼関係、生徒相互の温かい人間関係が、授業の基本にあると改めて感じた。
- 少人数の付箋を用いたグループ協議では、様々な意見交換が行われ、深まりのある協議となった。

【西部地区】

- 構造的な板書や教師の発言の拾い方、生徒の発言を引き出す問い返しが参考になった。
- 映像資料が効果的だった。生徒の心に響き、余韻のある終末につながっていた。

○教師側のいくつかの仕掛け（ペアインタビュー、役割演技等）が用意されており、生徒同士が関わり合っ
て意見交換し、考えを深めていた。

II

【東部地区】

- 発問の仕方、生徒の言葉のつなぎ方の工夫。
- 教材分析を的確に行うための分析図の活用。
- 少人数グループによる話合いの目的の明確化。
- ねらいに迫るための発問、生徒の思考を深めるための問い返しの工夫。
- 生徒同士が関わり合い、対話できる場の工夫。

【西部地区】

- 生徒の思考を深める学習形態と板書の工夫。
- 生徒の考えを広げ・深めるための切り返しや問い返しの工夫。
- 授業中の生徒の発言や記述の評価への生かし方。
- 授業者が時間と労力をかけた素晴らしい授業だったが、「明日の授業に活用できる」といった視点の授業があ
ってもよい。

III

2 地区研究会

- 使用する教材が他地区の教科書に載っていない場合、教材の取り扱い方について共通理解する。
- 授業の方向性が、授業担当校（授業担当者）任せにならないようにする。県の研究主題、研究の構想に沿った
授業研究になるように意識する。
- 大会当日の運営細案や反省事項等が申し送り事項として授業会場校間で引き継がれるようにする。
また、担当校や担当都市の負担が大きくならないように、他都市の先生方に協力を依頼する。

IV

1 運営分担や日程

- 部会協議①と②の時間配分のバランスが難しい。

2 研究授業

- I C T機器があったことで、参加人数の多いクラスでも隣の教室で参観できた。もう少し、生徒の声が聞こ
えたらよかった。

4 研究協議

- 小グループの協議、最後に全体でシェアしたことで、短い時間の中で参加者が主体的に協議に参加できた。
△グループ協議では、事前に司会者や発表者を決めておくとの時間の短縮になる。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

- アドバイザーの先生の講義はとても参考になった。
- 評価について具体的に教えていただけるとよい。

V

△アドバイザーの先生については、部会の要望も取り入れてほしい。

- 研究内容を積み重ね、継続していくことが必要。
- 道徳に興味・関心を高くもつ先生や新規採用の先生方の参加の機会があればよい。

<特別活動部会>

I

〈東部地区〉

- 学級会における教師の支援の在り方について考えさせられた。参観した授業では先生が積極的に全体の話合
いに関わり、話合いの方向性を修正したり、意見を整理し他の生徒に発言を促したりしていた。
- 部会協議②では、各学校の部員の実践を持ち寄ることで、日々行われている実践をもとにした協議を行うこ
とができた。今後の実践に生かすことができる現実的な協議になった。
- 生徒が主体的に話合いを進めるリーダーシップや教室の雰囲気できていた。
- 協議会のグループが少人数で、話合いがしやすかった。
- 4人班で話し合うことを通してグループの意見をまとめるのではなく、個人の意見をもつようにしていた。
自分の意見をもつ手段として有効だと感じた。
- 部会協議②では、各学校の実践報告を用いてのグループ協議を行った。他都市の先生方と合意形成や意思決

定に至るまでの手立てについて意見交換するよい機会となった。

- 研究授業と部会協議①②の視点を、「合意形成や意思決定に至るまでの手立て」に一本化し協議を行ったので、先生方の意見も出やすく、有意義な話し合いになった。

〈西部地区〉

○授業の導入で動画視聴を取り入れたのが効果的であった。

- 男女の学級長2名に進行を任せ、教員は机間指導役に徹して、生徒同士で合意形成し、意思決定できるような雰囲気ができていた。学級長の進行もスムーズであった。

○ダイヤモンドランキングを使用し、上位だけでなく下位についての意見交換が行われており、その後の方向付けなどをするのに効果的であった。

- 部会協議②の講義の中で、合意形成と意思決定について説明され、理解を深めることができた。また、新旧の学習指導要領が比較されていて、私たちに求められているのは、どのような力をもつ生徒を育てることなのか分かった。

II

〈東部地区〉

- 50分で合意形成するためには時間をより効率化しなければならない。そのためには司会者が時間を確認しながら意見を整理し、話し合いの焦点を絞っていかなければならない。発表の形態についても改善し、1つの取組についてじっくり話し合うための時間を確保したい。
- 学級会における教師の役割について、生徒を信用し見守ることも大切なのではないかと。生徒に伝えたいことを司会者が代弁する形もある。
- 所属学年以外の授業も参観できればよかった。
- 1学年の授業を参観して、学級会で教師がどのくらい関わればよいかと感じた。なるべく、関わらないためにも司会者の生徒に事前指導することの大切だと感じた。
- 指導案検討を部会全体で行うのであれば、授業者の先生方の準備等を考慮し、可能であれば夏休みの早い時期に実施したほうがよい。
- 今年度、全国中文祭の開催があり8月部会が8月19日と例年に比べて遅い時期の実施だったため、特別活動部員全員で指導案検討をすることができなかった。また、東部地区として指導案検討することができず、最終打合せの際に指導案の確認となった。検討段階の指導案を随時、富山地区以外の東部地区郡市部長にメールで伝える方法もあるが、煩雑である。
- 早い時期に指導案検討をするとよいが、そのためには早い時期に議題を絞る必要が出てくる。学級会の議題は、生徒にとって切実感のある、実態に応じた議題が望ましいため難しい。
- 特別活動部員が毎年変わることで、生徒会担当や7年次の先生方が多かったこと等から、予定が合わなかったり欠席になったりすることがあり運営上不都合なことが生じた。
- 各学校における実践事例について、情報交換を行う時間が短い。また、小グループは討議しやすい反面、情報の共有の範囲は狭い。

〈西部地区〉

- 生徒が司会を行い、進めていく上でどこで教員からの声掛けや指導を入れていくか。
- 部会協議①では、研究授業の感想や意見を一人ずつ言う形だったが、少人数で意見を交換する形式でもよかったのではないかと。短い時間ではあるが、一人ひとりが意見を述べる形では、沈黙の時間も長く、一つの内容に対しての深まりも感じにくかった。
- 部会協議①の部会のまとめを共通の場で発表する機会があるとよかった。
- 合意形成にいたるまでの時間配分は足りないことが多いので、時間配分に工夫が必要である。
- 2学年同時展開の研究大会だったので、各協議会の参加人数に偏りが出ないようにする。事前に参加する学年ごとに名簿を作成しておけばよい。
- 部会協議①では活発な意見交換を行うために、ペアやグループでの話し合いの時間を設けるなどして、進行の工夫をするとよい。

III

- 富山市の先生方に製本、配布をしていただき、たいへん助かった。
- 富山地区開催だったため、製本作業は富山地区で行ったが、資料発送費用が多くかかった。県の文書交換等で行ってはどうか。
- 事前研修会に授業者が参加してもらったので、授業者の意図が伝わり、部会の意見も直接伝えることができてよかった。

IV

- 東部地区は全ての学年で授業があったが、部員が自分で参加する授業を選べるとよかった。
- 事前にグループを決め、部会協議①、②を続けて行い、部会協議①は授業について、部会協議②は協議題について焦点を絞って話し合うことができた。
- グループ協議の時間は十分とれたが、全体協議の時間が十分とれなかった。部会協議でも教師自ら「合意形成」「意思決定」ができるよう工夫したい。
- 授業校の先生方もグループ協議に参加していたため、これまでの取組や日頃の生徒の様子を知ることができた。
- 授業が2つでアドバイザーの講義があるので内容が盛りだくさんであるが、研究主題に対して活動を振り返るまでを協議するには時間的に厳しい。
- アドバイザーの講義は、資料があり分かりやすく、今後の参考になった。

V

△年齢層が若くなり、日頃の学活の実践に悩みをもっている教師が増えてきており、今後、普段の実践の悩みを共有することができる場になればよい。

△他の学校の実践を見習い参考にしたり、共有したりできればよい。

△東部地区大会は、資料送付の数が多く、通信費を増額してほしい。

△特別活動部会で「話し合い」の手本となる映像資料を全員で視聴し、具体的な姿で指導について理解を深める機会があるとよい。

△合意形成を行うには「合意形成された状態」とはどのような状態なのかについての共通理解が必要である。

△学級会の時間を年間のカリキュラムの中で回数が取れないという意見が多く出ていた。

△キャリアパスポートについて、先進的な事例を知りたい。

<特別支援教育部会>

I

【東部地区】

○6名の生徒に対して丁寧に指導されていた。野菜を育て、調理し、それをパソコンでまとめるという、自立につながるよい内容であった。また、細かく記録を書かせてあったり、先生のコメントがあったりと、しっかりとした指導であった。会場に今までの取組がわかる資料（ファイル等）が展示してあり、とても参考になった。

○情報の得意なスタディメイトの方や技術科の先生の協力体制があって、よい研究授業になった。家庭での実践があり、家でも野菜を育てたいとの発言もあって、将来につながる内容であった。

○支援級の生徒たちが過度に緊張しないように、事前のビデオ撮りによる授業参観ができてよかった。3方向から撮影し、3台のモニターを用いて映し出し、クラスや授業の様子がよく分かった。

○グループ討議の時間が設定されていたので、充実した話し合いができた。こだわりの強い生徒に対する対応についてなど、いろいろな先生方と意見交換、ディスカッションができ、今後の活動の参考になった。

○研究授業も研究発表も、他校や他地域の取組を知ることができ、参考になった。特に、富山市の発表は、動画や写真を多く使って生徒の変容がよく分かり、感動的だった。年5回の合同学習は運営が大変だが、生徒にとっては必要な活動に思えた。

【西部地区】

○生徒の実態をとらえて、足りない面を補い、将来の生活や労働に生きる力を高める取組として、大変よかったと思う。生徒の気持ち（要望）や能力がよく検討され、これなら頑張りたいという活動内容になっていた。生徒が自分の映像を手がかりに、自分の目標を変更してもよいとしていることは、安心して活動できることにつながり、より意欲を高めることになっていた。

○「体の動き」の自立活動の授業を参観することができ、肢体不自由の特支級の担任として、大変参考になった。運動能力や健康保持に関わる支援の在り方がよく分かった。運動を取り入れたことで、身体の動きの大切さを改めて知ることができた。苦手なところ、得意なところを組み合わせながら上達していくことが分かって、参考になった。

○運動する時にBGMを流し、気分を向上させ、楽しい雰囲気をつくっていたところがよかった。また、マイクを使ったことで、生徒の発言や指導者の言葉かけひとつひとつが分かりやすかった。

○支援級の生徒同士のコミュニケーションを高めるという点で、励ましの言葉を掛け合う場面が多く見られてよかった。また、生徒が意欲的に参加しようとする仕掛けや配慮が細やかだった。クリアできた時のピンポンの音、頑張りメダルや頑張り表、先生の励ましの声かけ等、一つ一つが生徒の頑張ろうとする気持ちを支えていた。

○活動の様子をタブレットですぐに見ることができてよかった。**タブレットを用いた振り返りを視覚的に行い、生徒の意識を引き出していた。**

【アドバイザー講義】

○新しい学習指導要領のもとでの特別支援教育について理解できた。特に、自立活動や個別の指導計画について、講義が大変分かりやすかった。自立活動はどんなことをすればよいか、道徳についても知ることができた。個別の指導計画の書き方がよく分かって、今後に生かせようである。

○自立活動は、活動すればよいというものではなく、日常生活に生かされる、成長が実感できることを満たすという基本を忘れがちなと、講義を聴いて改めて思い起こした。自立活動を計画するヒントになった。

II

【東部地区】

●自分の目標を生徒の口から発表させると、本人の意識も高まると思える。互いの発表へのアドバイスを付箋に書いたが、生徒が発表した後に先生がフォローするとよかった。また、発表のよかったことやアドバイス

を伝える時に、感想を話す生徒を見るようにしたらよかった。

- 3か所からの映像を撮ったが、生徒がパソコンで制作した発表画面の映像もあると分かりやすかった。また、板書で貼っていたものも協議会で見るようにしてあるとよかった。カメラのうち1台は、黒板やテレビを拡大して映してあるとよいと思う。
- 生徒の実態を考慮してのビデオ撮影であるが、あまり特別支援の授業を見ない者にとっては違和感があり、やはり生の授業を見たいと思った。また、ビデオ視聴であれば、見る視点（注目してほしい部分、生徒の表情、教師の動き、S.Sの働きかけ等）を事前にはっきり提示しておけば、さらに効果的であったと思う。
- 授業内容、生徒の活動共に大変素晴らしかったが、50分の授業に収めようとしすぎていた。生徒の実態も含めて2コマ分の授業を1時間程度に編集しての授業発表でもよかったのではないかと。

【西部地区】

- タブレットで生徒が見た動画が、大型テレビ等で参観者にも見られたらよかった。また、授業時間はオーバーしないように時間配分を考えた方がよい。
- 数種類のトレーニングが一連の「サーキット」になっていたが、Aパート、Bパートと区切ってもよかった。生徒にとっては休憩をはさむことになり、さらに高い目標をもって自分の力を高められたのではないかと。
- TTでの指導であったが、指導案にT1、T2の動きや役割が書かれているとよかった。
- 少ない生徒、多様な生徒で、授業を公開する時に、多人数の教師がいるのは大変である。録画公開や別室から参観の方がよいのではないかと。あるいは、授業ではなく、実践発表という形の研究発表にしてほしい。

IV

【東部地区】

- 支援級の担任が全員出張で学校を抜けてくるのは大変である。例えば、各校1名ずつの参加としてはどうか。また、授業発表はVTRでの発表となりがちだが、方法についての検討が必要である。
 - グループ討議をすることをあらかじめ知らせてほしかった。席割やグループリーダーが受付時に分かるとよかった。
- △支援級の生徒に精神的負担をかけない配慮から、ビデオ撮りをしての発表が多くなっているが、今後、初めから部会協議①は授業や郡市の取組の発表、部会協議②はテーマを決めた講義や教材・外部支援機関との連携についての情報交換とすればよいと思う。

【西部地区】

- 西部地区は広いので、13:30の授業スタートに間に合わせるのは大変。もう少し開始時刻を遅らせてほしい。
- △授業前のオリエンテーションがあると分かりやすい。
- △支援級の生徒を残してくるのは心配なので、授業と部会協議①だけでもよいのではないかと。または、他の教科と同じ日でもよいのではないかと。

V

【東部地区】

- △ビデオ視聴による授業の場合は開始時間を遅らせてほしい。
- 授業ではなく、教材教具についての話し合い等の情報交換のできるものにしてほしい。
 - 研究授業を行う時には、事前に保護者に了解を得ているかと思うが、場合によっては拒否されることも考えられる。やはり、特別支援教育においては、研究授業以外の発表形態を考えていく必要があると思う。

【西部地区】

- 生徒の実態についてくわしく指導案に明記してもらえると、それを踏まえて生徒の様子を観察することができる。（交流級での様子や得意・苦手分野（教科）等）
- 今回は、見られることに抵抗がなく、意欲が高い生徒だったのでよかったが、生徒の実態によっては、授業公開は難しい。毎年要望が出ているとは思いますが、公開授業以外の研究大会も検討されたい。

<保健部会>

I

- 「運動器に関する指導」という取組に絞った発表がよかった。発表内容が精選されていて、すっきりとわかりやすかった。
- 運動器検診を教育に結び付ける取組がすばらしかった。運動器検診の意義を改めて考える機会となり、健康診断を保健指導に生かすということが、とても勉強になった。養護教諭が健康教育をマネジメントしているということがよくわかった。
- R-PDCAサイクルを意識した一連の取組がとても参考になった。年度ごとに成果と課題を検討し、次年度に生かして取り組んだことで成果が出ていた。
- 年間を見通して計画がしっかり立てられていた。学校保健計画や保健室運営計画に位置付け、生徒指導部と

学校保健部との連携、保健体育科教員や専門家の協力等、「チームで組織的な取組」がなされていた。養護教諭が、コーディネーターとして組織に働きかけることは大切だと感じた。

- 生徒同士の関わり合いの場が工夫されていた。生徒が主体となる活動が工夫されており、意欲付けや実践につながっていた。
- 継続した個別指導が効果的だった。他の生徒も一緒に取り組むことで、自分もできるという自己効力感が高まり、生徒が継続して実践することができた。
- 展示発表や資料が充実しており、分かりやすく参考にしたい事例が多かった。「生活習慣に関する指導グループ」から配布された資料集は好評だった。

○発表の時間20分はちょうどよかった。

- 運動部以外の生徒、日頃運動をあまりしていない生徒への指導も必要である。
- 学校の規模によっては、養護教諭が個別指導を続けることは難しい。時間の確保や養護教諭の関わり方等、研究を深めていきたい。
- 栄養教諭との連携の在り方も考えてほしい。
- 協議の時間が十分に確保され、いろいろな視点から意見を聞くことができ充実した部会協議となった。

○事前にワークシートが配布され、個々に考えをまとめていたので話し合いがスムーズに進んだ。

- グループ内に発表地区の方が入ることで、発表や紙面では分からなかった、より具体的な話を聞くことができた。
- よかった点と課題の両方を話し合うよう指示されたことで、グループ内で課題も意識して話し合うことができた。各校の実態や課題を出しながら協議ができてよかった。
- 協議会の進め方がとても素晴らしかった。司会者が、各グループでの話し合いを的確に捉え、事前に話してほしい内容を指示していたので、全体会での各班の発表がねらい通りの内容で無駄がなかった。
- 講義は、理解しやすい話ぶりと内容で、これは使えると感じる点が多くあった。

○アドバイザーの講義は、教材の工夫について学びが多くあり、教材研究の重要性を再認識し、今後予定している保健指導に活用したいと思える内容だった。

○保健の授業づくりについて、いかに教材を工夫し、生徒の興味をひくことが大切かを、体験を通して学ぶことができた。環境面への働きかけも、工夫次第で効果が変わることを改めて感じた。

II

△今後も、総論だけでなく、具体的な学びを得ることができる今回のような研究大会を希望する。

- 日常の執務に取り入れたり、取り組んだりできそうな研究内容が望ましいと思う。その方が、発表地区の負担も軽減されると思う。
 - 何をもって評価し、成果とするのか。どのような活動が変容をもたらしたのかを明らかにする必要がある。
 - 運動器に絞られた発表内容だったため、協議する内容も絞られ、時間が余った。
- △部会協議では、提案発表を基にした視点についての協議はもちろん必要だが、他地区の実践を知るよい機会だと思うので、グループ内で各校の取組を聞いたり、情報交換をしたりする時間も確保することはできないか。

△グループでの役割分担を司会、書記、発表の3人にするのもよいと思う。

△グループでの話し合いは、付箋を使うなど、もっと気軽に話し合える方がよい。

△事前配布のワークシートも、当日の記録用紙のように「よかった点」「改善点・課題」と分けてあればスムーズに意見交換ができたように思う。

△アドバイザーの講義は、組織的な取組や学習指導要領の改定等、試案作成に役立つ内容がよい。

△中学生の心のケアや保健室の在り方等、より実践的なテーマの講演がよい。

III

△事前研修会に発表者の参加をなくして、発表者の負担を軽減できた。地区部長全員が参加し、発表者の参加は必要ない。

△発表資料の「各地区の研究」は、製本時期の関係から1学期分だけの内容になる。内容や作成の負担を考えると、廃止した方がよい。

IV

○会員受付と下足置き場を会場内にしたことで、玄関の混雑を解消できた。

- スクリーンは大きかったが、暗かったり、しわが入ったりして鮮明に映らず、スライドが見えにくい場面があった。
- 展示発表を見る時間が少なく残念だった。
- 後片付けが非常に慌ただしい。片付けの担当をしっかりと決め、会員にも、協力の仕方等の動きを説明しておいた方がよい。

△会員ですべて片付け（原状回復）をして、17時には会場を空けないといけない。部会協議の時間を5分短くして、終了時刻をもう5分だけでも早くできないか。片付けの時間を考慮すると、16時45分終了では慌ただし過ぎる。

V

- 会員数の多い市は研究に深まりがみられるが、会員数が少ないところは負担が大きい。
- 学校の統合で学校数が減少した場合、発表の機会や役職の見直しを検討してほしい。